

大学等名	成蹊大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない

③ 修了要件

「データサイエンス入門(2単位)」を取得すること。

- 必要最低単位数 2 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機性能の向上、AIの非連続的進化、第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、人間の知的活動とAIの関係性、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス入門」(第1回)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)、AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「データサイエンス入門」(第13、14回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)、データの作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス入門」(第1、2回)
	1-3	・データ・AIの広がり(生産、消費、文化活動など)、研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービス、仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、「データサイエンス入門」(第2回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など)、データの可視化、非構造化データ処理(言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など)、特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ、認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス入門」(第2回)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス入門」(第2回) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス入門」(第3、4、5、8、9、10回)

(4)活用に当たったの様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI、個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト、データ倫理(データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)、AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス入門」(第11, 12回)
	3-2	・情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)、匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス入門」(第11, 12回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、観測データに含まれる誤差の扱い、打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ、相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)、母集団と標本抽出、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、統計情報の正しい理解「データサイエンス入門」(第6, 7回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)、データの図表表現、データの比較(A/Bテスト)、不適切なグラフ表現、優れた可視化事例の紹介「データサイエンス入門」(第6, 7回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール(スプレッドシート)、表形式のデータ(csv)「データサイエンス入門」(第7回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ① ビッグデータやAIがもたらす社会変化を知り、データサイエンスの活用事例を通して代表的な技術や応用への理解を深める。
- ② データを扱う上で留意すべき法制度・倫理等を理解し、適切なデータ利活用のための知識を備える。
- ③ 実データの収集や整理を通して、基本的な手法を用いたデータ分析を実践できる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度									令和3年度									令和2年度									令和元年度									平成30年度									平成29年度									履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数																						
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性																							
経済学部	1,283	230	1190	38	29	9	32	24	8	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			38	3%																		
経営学部	929	290	870	12	7	5	11	6	5	0			0			0			0			0			0			0			0			0			12	1%																					
理工学部	1,756	420	1620	126	105	21	104	85	19	0			0			0			0			0			0			0			0			0			126	8%																					
文学部	1,759	420	1700	0	0	0	0	0	0	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	0%																					
法学部	1,879	440	1760	4	3	1	3	2	1	0			0			0			0			0			0			0			0			0			4	0%																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
				0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!																					
合計	7,606	1,800	7,140	180	144	36	150	117	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	180	3%																					

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	3%	令和5年度予定	4%	令和6年度予定	5%
令和7年度予定	6%	令和8年度予定	7%	収容定員(名)	7,140

具体的な計画

目標を実現するために、令和5年度より動画教材を作成し、学内のLMSをはじめとするICTシステムを積極的に活用することで、オンラインでの受講ができる仕組みを整える。また、履修率向上に向け、令和5年度より本教育プログラムの修了者には修了証としてオープンバッジの導入を検討しており、全学的に本プログラムのPRを実施する予定である。令和7年度に向けて専任教員を新たに採用し、本教育プログラムに該当する「データサイエンス入門」のクラス数を増加する計画であり、現状の2倍を上回る履修者数を見込んでいる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「データサイエンス入門」を全学共通科目として開講し、全学教育運営委員会が各学部との連携のうえ、学生の履修しやすい曜日・時限に開講するように調整している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

2022年3月より本プログラム専用ホームページ
(https://www.seikei.ac.jp/university/education/suuri_ds_ai/program.html)を公開し、本学のWEBサイトホームページトップ画面にリンクを掲載して、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。また、2023年度より履修要項にて本プログラムの説明を記載し周知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学の新生を対象とした全学的な情報基盤科目において、本教育プログラムに該当する科目である「データサイエンス入門」の紹介を行っている。また、本科目について、学内LMSである「CoursePower」に授業資料の掲載や掲示板等を立ち上げ、授業の内容をあらかじめ把握できたり、いつでも振り返ることができるように学習支援の環境を整えている。さらに学内のe-learningシステムである「WebClass」に当該科目の達成度確認テストを作成することで、オンライン環境において履修者が各自の習得度・理解度を確認できる仕組みを導入している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

教員ごとにオフィスアワーを設けており、学生は授業時間以外にも対面で質疑応答を行うことができる。また、学内LMSである「CoursePower」においても履修者専用の掲示板を設置して、学生の質問を受け付けている。授業時間外でも確認できるように授業のフィードバックも同掲示板で行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

全学教育運営委員会

(責任者名) 山田 崇人

(役職名) 全学教育運営委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	2023年2月21日の全学教育運営委員会で、令和4年度の本プログラムの履修・修得状況の分析を実施した。「データサイエンス入門」単位取得者には、本教育プログラム修了者として修了認定証を授与した。令和4年度の初年度においては本プログラム履修者180名(経済学部38名、経営学部12名、理工学部126名、法学部4名)のうち、経済学部で32名、経営学部で11名、理工学部で104名、法学部で3名の計150名が本プログラムを修了した。
学修成果	学期ごとに実施する「授業評価アンケート」の調査項目のうち、「データサイエンス入門」における「シラバスに記載された到達目標を身に付けられましたか。」「授業の内容への興味が増し、さらに深く学びたいと思いませんか。」の項目を全学教育運営委員会で分析することによって、学生の学修成果を把握し、本教育プログラムの評価・改善に活用した。「シラバスに記載された到達目標を身に付けられましたか。」の項目から、「身に付けられた」が26%、「やや身に付けられた」が51%であり、「どちらとも言えない」が23%、「あまり身に付けられなかった」及び「身に付けられなかった」は0%であった。「授業の内容への興味が増し、さらに深く学びたいと思いませんか。」の項目から、「そう思う」が47%、「ややそう思う」が34%であり、「どちらとも言えない」が17%、「あまりそう思わない」が0%、「そう思わない」は2%であった。以上から、学修成果は高かったといえる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学期ごとに実施する「授業評価アンケート」の調査項目のうち、「データサイエンス入門」における「この授業の内容をよく理解できましたか。」の項目から、「理解できた」が30%、「やや理解できた」が45%であった。一方で、「どちらとも言えない」が21%、「あまり理解できなかった」が4%、「理解できなかった」が0%となり、大方、学生の内容の理解度は高かったといえる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	初年度(令和4年度)に本教育プログラムを履修した学生に対して、「勧めたい」「どちらともいえない」「勧めたくない」の3つの選択肢で回答するアンケートを実施したところ、回答学生の60%以上が本科目を他の学生、または後輩に勧めたいと回答している。勧めたい理由として、「データサイエンスに関する幅広い知識を身につけることができる」「データサイエンスの活用事例を複数の専門講師から聞くことができる」等、授業内容に対する満足度が高いことが伺える。勧めたくないと回答した学生はおらず、履修生による口コミでの推奨が期待できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムに該当する「データサイエンス入門」については、令和4年度に開講した科目である。今後の履修者数、履修率の向上に向け、学内でのPRを積極的に実施する予定である。他のデータサイエンス教育科目でも本科目の紹介をするとともに、修了者には本プログラムの修了証として、次年度(令和5年度)よりオープンバッジの発行を検討している。また、本科目は本学副専攻制度のコースの1つである「データサイエンス副専攻」の修了必須科目に設定している。データサイエンスに興味を持つ学生が身につけるべき教養科目として、文理問わず多くの学生に履修を推進している。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本教育プログラムは令和2年度の入学生から設置されており、まだ修了者の卒業生は出ていない。本学では、卒業生の進路調査「成蹊大学卒業生調査」を実施している。「成蹊大学卒業生調査」は、大学IRコンソーシアムが企画し、会員校である本学でも令和2年度から開始した調査で、卒業して3年目、5年目、10年目のOBOGを対象としたWebアンケートであり、本プログラム修了者の進路先や活躍状況の把握を実施する予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本教育プログラムである「データサイエンス入門」では、データ・AI利活用の動向を学修するため、社会の各分野でデータサイエンスを活用して研究や仕事を進めている複数の専門家を講師としたオムニバス形式の授業を取り入れている。オムニバス講義では、一部、民間企業での業務経験を有する専門講師による事例や仕事内容の紹介を実施しており、履修者と講師間で活発な意見交換を行う機会を取り入れている。また、専門講師には講義後に履修者からの感想やコメントをまとめたものをお渡しし、講師の視点から授業内容や履修者の理解度等に関するフィードバックをいただいている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本教育プログラムである「データサイエンス入門」は、文系理系を問わず全学部生を対象とした科目である。数式は極力使わず、データサイエンスにより興味を持ってもらえるように身近な事例や実データの分析などを取り上げている。また、各分野でデータサイエンスを活用している複数の専門講師を招聘することで、履修生はデータサイエンスと融合する様々な分野に触れることができるよう工夫している。授業アンケートでは、履修生から「いろいろな分野の事例を知ることができて面白かった」「飽きることなく毎回楽しく受講できた」等のコメントが多くあった。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>本教育プログラムである「データサイエンス入門」では、社会におけるデータサイエンスの動向を踏まえつつ、履修者がどの分野に興味を持っているかアンケート等で意見を集め、オムニバス講義において学生の興味や感心の高い分野で活躍する専門講師を招聘することを検討していく。また、ICTの活用や動画教材の充実を図り、履修生にとって「分かりやすい」授業となるよう関連する教員や専門講師の意見等を参考に全学教育委員会において継続的な授業の改善・見直しについて検討を行っていく。</p>

シラバス参照

科目名	データサイエンス入門
教員名	山野井 瞳
講義コード	120512730
単位数	2
配当年次	1年生
科目ナンバリング	LAC19-109
開講年度	2022
開講時期	後期

シラバス

授業評価

テーマ・概要	<p>情報通信技術の発展やPCやスマートフォンの普及などに伴い、日々膨大なデータが蓄積されている。AI(人工知能)技術やデータ分析を応用した新しいサービスやシステムも次々と誕生してきて、私たちの社会は今まさに大きく変化しつつある。この革新時代において、大量のデータを分析し、データから有益な情報や価値を得るためにデータサイエンスの重要性が高まっている。</p> <p>本科目は様々な分野におけるデータサイエンスの研究や活用事例を通して、データサイエンスの目的や意義、現代社会と関わりを理解することを目的とする。ビッグデータやAIの理解を深めるとともに、データを活用する上で必要な倫理やデータの適切な扱い方についての基本を学修し、データ分析のための基礎的な知識やスキルを習得する。</p> <p>なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。</p>			
到達目標	<p>DP3-1【課題の発見と解決】およびDP4-1【表現力、発信力】を実現するため、以下を到達目標とする。</p> <p>① ビッグデータやAIがもたらす社会変化を知り、データサイエンスの活用事例を通して代表的な技術や応用への理解を深める。 ② データを扱う上で留意すべき法制度・倫理等を理解し、適切なデータ利活用のための知識を備える。 ③ 実データの収集や整理を通して、基本的な手法を用いたデータ分析を実践できる。</p>			
授業の計画と準備学習	回数	授業の計画・内容	準備学習(予習・復習等)	準備学習の目安(分)
	第1回	授業ガイダンス 社会におけるデータ・AI利活用① ・社会で起きている変化 ・社会で活用されているデータ	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.1 - p.40	60
	第2回	社会におけるデータ・AI利活用② ・データとAIの活用領域 ・データ・AI利活用のための技術 ・データ・AI活用の現場	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.41 - p.110	60
	第3回	データ・AI利活用の動向① ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60
	第4回	データ・AI利活用の動向② ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60
	第5回	データ・AI利活用の動向③ ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60
	第6回	データリテラシー① ・データを読む ・データを説明する	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.127 - p.163	60
	第7回	データリテラシー② ・データを扱う ・データ分析演習の課題出題	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.164 - p.174 課題を提出すること	60
	第8回	データ・AI利活用の動向④ ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60
	第9回	データ・AI利活用の動向⑤ ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60
	第10回	データ・AI利活用の動向⑥ ・経済/医療/科学/企業等の分野における事例	講義を振り返りリアクションペーパーを提出すること	60

	第11回	データ・AI活用における留意事項① ・データ・AIを扱う上での留意事項	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.175 - p.204	60
	第12回	データ・AI活用における留意事項② ・データ・AIを守る上での留意事項	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.205 - p.226	60
	第13回	データ・AI活用の最新動向 達成度確認テスト(オンライン)	授業内容を復習すること 参考)教科書 p.111 - p.126 オンラインテストを受講すること	60
	第14回	まとめ ・課題の講評 ・データサイエンスの活用に向けて	授業内容を復習すること	60
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の各分野でデータサイエンスを活用して研究や仕事を進めている複数の専門家を講師としたオムニバス形式の講義授業とする。 ・適宜リアクションペーパーや課題を課すので、各自のPCや大学のPC教室等を利用して取り組むこと(授業時のPC持参は自由)。 			
課題等へのフィードバック方法	最終授業で課題やテスト等の講評、解説を行う。			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・達成度確認テスト(オンライン) [40%] ・データ分析の演習課題 [30%] ・平常点(授業態度・リアクションペーパー提出など) [30%] 上記により総合的に成績評価を行う。学期末試験は実施しない。			
成績評価の基準	成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 到達目標の達成度を達成度確認テストや課題等にて評価する。			
必要な予備知識/先修科目/関連科目	「情報基礎」を履修していることが望ましい。 表計算ソフトウェア(Excel)の基本的な操作ができることが望ましい。			
テキスト	『教養としてのデータサイエンス』北川源四郎、竹村彰通 編 他、講談社 ISBN 978-4-06-523809-7			
参考書	特になし			
質問・相談方法等(オフィスアワー)	ポータルサイトで周知する。			
特記事項	ICT教育科目			

2022年度成蹊大学経済学部履修要項一部抜粋

科目の構成

経済学部のカリキュラムは「全学共通科目(通称:成蹊教養カリキュラム)」、「経済学部開設科目」、「自己設計科目」から構成されています。各科目区分の詳細な内容および履修方法は、それぞれのページで確認してください。なお、それぞれの区分で卒業資格を得るために修得しなければならない単位数が定められています。

<経済学部 経済数理学科>

科目区分				
全 学 共 通 科 目	外国語	英語科目	必修	
			選択必修	
				選択
		初修外国語科目		
	技能	日本語力科目		
		キャリア教育科目		
		情報基盤科目		
		健康・スポーツ科目		
	教養基礎	人文科学		社会科学
				自然科学
持続社会探究	環境・地域		国際理解	
			人権・共生	
			実践	
経済学部開設科目	ゼミナール科目	必修		
		選択		
	基盤科目	基盤 I		
		基盤 II		
	総合科目	制度・歴史		
		社会理解		
	応用発展科目	応用科目		
発展科目				
広域基礎科目				
自己設計科目				

<経済学部 現代経済学科>

科目区分				
全 学 共 通 科 目	外国語	英語科目	必修	
			選択必修	
			選択	選択
		初修外国語科目		
	技能	日本語力科目		
		キャリア教育科目		
		情報基盤科目		
		健康・スポーツ科目		
	教養基礎		人文	学
			社会	科学
		自然	科学	
持続社会探究			環境・地域	
			国際	理解
		人権・共生		
		実践		
経済学部開設科目	ゼミナール科目	必修	選択	
	サステナビリティ研究科目	地域コミュニティ経済科目		
		グローバル経済科目		
	基盤科目		基盤 I	
			基盤 II	
	総合科目		制度・歴史	
			社会	理解
	応用発展科目		企業	経済科目
			金融	経済科目
			地域・環境	科目
		公共	政策科目	
		E A G L E 国際教養科目		
	広域	基礎	科目	
	自己	設計	科目	

■ 経済学部カリキュラムの特徴

- ① 経済学に関する専門知識を確実に修得できるようにするために、体系的に専門科目を配置しています。
- ② 専門分野の基礎の修得のため、1年次および2年次に「基盤科目」を配置しています。
- ③ 専門知識、教養をバランスよく学修することができるように、成蹊教養カリキュラム、経済学部科目の2つの区分を明示し、それぞれから単位修得することを基本としています。
- ④ 1年次から4年次までのすべての学年に少人数による演習科目を設け、4年次の演習科目である「卒業研究」を必修としています。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的（成蹊教養カリキュラム）

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル（汎用的技能）」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育てていきます。（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

科目群と科目の種類（成蹊教養カリキュラム、教職課程科目）

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています（「健康・スポーツ科目」を除く）。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English（Listening & Speaking）I・II」、「College English（Reading & Writing）I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English（Integrated Skills）I・II」を履修します。（グローバル教育プログラム（EAGLE）所属学生は「College English（Integrated Skills）I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。）他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」（1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり）、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」（3年履修登録時に選抜あり）など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演

習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。一部の科目を除き、卒業に必要な単位には含まれませんので、注意してください。教職課程の履修については、別途配布される『教職課程履修ガイド』で確認してください。

各科目群の教育目的（経済学部開設科目）

経済学部では学部開設科目の履修を通じて、経済学に関する深い専門知識を備え、人文、社会、自然の各分野ならびに各分野にまたがる学際的な分野に関する幅広い教養を有し、これらに基づいて、グローバルな視点から現実社会における課題を発見し、他者と協働して課題解決に取り組んでいくことができる人材の育成を目指しています。

科目群と科目の種類（経済学部開設科目、自己設計科目）

経済学部開設科目は以下の通りです。

1. 経済数理学科

■ ゼミナール科目

4年間を通した体系的なゼミ（演習）によって、数理モデルや計量経済学的手法を利用した問題解決能力を養います。

■ 基盤科目

経済学の基礎理論であるミクロ経済学とマクロ経済学、計量経済学を基礎から上級まで体系的に学習します。

■ 総合科目

過去から現在にかけての人類の経済活動の歴史を理解し、現代の経済・社会が歴史的経緯の中でどのように位置づけられるのかを学びます。

■ 応用発展科目

経済学の基礎理論を具体的な対象（企業、産業、金融、公共部門、国際経済など）にどのように応用することができ、それが現象の理解や課題解決につなげられるのかを学びます。

■ 広域基礎科目

広域基礎科目は、日本史・外国史・地理学・地誌・政治学など、主として教職をめざす学生に必要な教科の素養を養成するための科目です。教職課程登録者のみ履修することができます。

■ 自己設計科目

各科目区分の規定の単位数を超えて修得した単位、他学部履修によって修得した単位、単位互換で修得した単位が合わせて28単位まで卒業に必要な修得単位数に算入されます。自分の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立て、有効に活用してください。

2. 現代経済学科

■ ゼミナール科目

4年間を通した体系的なゼミ（演習）によって、経済学を活用し、現代社会における具体的な問題を解決していく能力を養います。

■ サステナビリティ研究科目

持続可能な社会の構築に不可欠となる地域社会やグローバル社会を理解するための方法を、フィールドワークや実践型の授業により身につけます。

■ 基盤科目

経済学の基礎理論であるマイクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学を体系的に学習し、現代社会を理解するための補完的な分野を学習します。

■ 総合科目

過去から現在にかけての人類の経済活動の歴史を理解し、現代の経済・社会が歴史的経緯の中でどのように位置づけられるのかを学びます。

■ 応用発展科目

経済学の基礎理論を具体的な対象（企業、産業、金融、公共部門、国際経済など）様々なテーマにどのように応用することができ、それが現象の理解や課題解決につながられるのかを学びます。

■ 広域基礎科目

広域基礎科目は、日本史・外国史・地理学・地誌・政治学など、主として教職をめざす学生に必要な教科の素養を養成するための科目です。教職課程登録者のみ履修することができます。

■ 自己設計科目

各科目区分の規定の単位数を超えて修得した単位、他学部履修によって修得した単位、単位互換で修得した単位が合わせて20単位まで卒業に必要な修得単位数に算入されます。自分の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立て、有効に活用してください。

科目の種類

■ 授業時期・期間による科目の種類は以下の通りです。

名 称	授業期間 ※	履修登録の時期	成績の公表時期 ※
前期科目	4月～7月	前期	9月
後期科目	9月～翌年1月	前期または後期	3月
通年科目	4月～翌年1月	前期	3月
集中講義科目	9月上旬	前期	10月

※ 授業期間、成績の公表時期の詳細は『履修成績関係日程』を参照してください。

■ 履修方法による科目の種類は以下の通りです。

名 称	概 要
必修科目	卒業資格の認定を得るために、必ず単位を修得しなければならない科目です。
登録必須科目	大学が履修を推奨する科目です。必ず履修しなければならない科目です。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。
選択科目	選択して履修することができる科目です。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外国語									
英語 科目 選 択	必修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選択 必修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○							
		College English (Integrated Skills) I ○				College English (Integrated Skills) II ○			
	資格 試験	TOEFL Preparation Introduction ○ TOEFL Preparation Intermediate ○ TOEIC Preparation Introduction ○ TOEIC Preparation Intermediate ○ IELTS Preparation Introduction ○ IELTS Preparation Intermediate ○							
		基礎からのコミュニケーション英文法② 自分でデザインする英語学習② 英語発音トレーニング② 英語読解トレーニング②							
	スキル 強化 科目	Presentation Skills Basic② Discussion Skills Basic② Writing Skills (Paragraph)② Presentation Skills Intermediate② Discussion Skills Intermediate② Writing Skills (Essay)②							
		英語発 展科目		多読で学ぶ英語と文化 I ② 映画で学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化② キャリアのための英語と文化②			多読で学ぶ英語と文化 II ② ドラマで学ぶ英語と文化② メディアで学ぶ英語と文化②		
	Advanced English	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced ○							
TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○									
Media English② Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Workplace② Essay Writing② Intensive Reading② World Englishes②									
初修外国語科目	コア	ドイツ語基礎 A I ○ ドイツ語基礎 B I ○ フランス語基礎 A I ○ フランス語基礎 B I ○ スペイン語基礎 A I ○ スペイン語基礎 B I ○ 中国語基礎 A I ○ 中国語基礎 B I ○ 韓国語基礎 A I ○ 韓国語基礎 B I ○							
		ドイツ語基礎 A II ○ ドイツ語基礎 B II ○ フランス語基礎 A II ○ フランス語基礎 B II ○ スペイン語基礎 A II ○ スペイン語基礎 B II ○ 中国語基礎 A II ○ 中国語基礎 B II ○ 韓国語基礎 A II ○ 韓国語基礎 B II ○							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②	
		フランス語演習コミュニケーションⅠ②		フランス語演習コミュニケーションⅡ②		フランス語演習コミュニケーションⅢ②		フランス語演習コミュニケーションⅣ②	
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		スペイン語演習コミュニケーションⅡ②		スペイン語演習コミュニケーションⅢ②		スペイン語演習コミュニケーションⅣ②		
	中国語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅡ②		中国語演習コミュニケーションⅢ②		中国語演習コミュニケーションⅣ②		
	韓国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅡ②		韓国語演習コミュニケーションⅢ②		韓国語演習コミュニケーションⅣ②		
発展B群	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅲ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅱ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅳ②		
	フランス語演習言語と文化Ⅰ②		フランス語演習言語と文化Ⅲ②		フランス語演習言語と文化Ⅱ②		フランス語演習言語と文化Ⅳ②		
発展C群	ドイツ語演習検定対策Ⅰ②		ドイツ語演習検定対策Ⅲ②		ドイツ語演習検定対策Ⅱ②		ドイツ語演習検定対策Ⅳ②		
	フランス語演習検定対策Ⅰ②		フランス語演習検定対策Ⅲ②		フランス語演習検定対策Ⅱ②		フランス語演習検定対策Ⅳ②		
発展D群	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅢ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅣ②		
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ②		フランス語演習プレゼンテーションⅡ②		フランス語演習プレゼンテーションⅢ②		フランス語演習プレゼンテーションⅣ②		
E群	世界の言語①								

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
		日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
	発 展	古典に学ぶ日本語表現②						
		実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
	発 展	ビジネストレーニングセミナー②						
		キャリアセミナー② キャリア発展講義②		グローバルキャリアセミナー② 日本企業の現状と展望②				
		インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習②					Global Career Design②	
情報基盤科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用D② Python 入門②	情報活用B② 情報活用E②	情報活用C② 情報活用F② データサイエンス入門②				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②	倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②	現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②	現代社会と倫理学② 教育心理学②				
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②	経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②	社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②	日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②				
自然科学	物質の究極像② 薬はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②	人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②	脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②	天文学入門② 科学技術の発展と歴史②				
持 続 社 会 探 究								
環境・地域		地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②	気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②	自然環境と文明②				
国際理解		戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②	近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②	近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②				
人権・共生		裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②	生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②	地域福祉論② 高齢者福祉論②				
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②	情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②	野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②					
	Global Studies Seminar I②							
	Global Studies Seminar II②							
	Global Studies Seminar III②							

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

2022年度成蹊大学経営学部履修要項一部抜粋

科目の構成

経営学部のカリキュラムは「全学共通科目（通称：成蹊教養カリキュラム）」、「専門科目（経営学部開設科目）」、「自己設計科目」から構成されています。各科目区分の詳細な内容及び履修方法は、それぞれのページで確認してください。なお、それぞれの区分で卒業資格を得るために修得しなければならない単位数が定められています。

科目区分				
全学共通科目	外国語	英語科目	必修	
			選択必修	
	技能		初修外国語科目	選択
			日本語力科目	
			キャリア教育科目	
			情報基盤科目	
			健康・スポーツ科目	
	教養基礎		人文	学
			社会	学
			自然	学
持続社会探究		環境・地域		
		国際	理解	
		人権・共生		
専門科目	演習科目		必修	
	専門基幹科目	経営経済基礎科目		
		経営専門基礎科目		
	専門応用発展科目	戦略とマーケティング科目		
		組織と人間科目		
		ファイナンスと会計科目		
	学際科目	応用発展共通科目		
		情報分析科目		
		グローバルと文化科目		
		実践キャリア創造科目		
高度学際科目	学際共通科目			
	高度情報分析科目			
広域基礎	高度グローバル科目(EAGLE)			
	自己設計	科目		

■ 経営学部カリキュラムの特徴

経営学部のカリキュラムは、(1)全学共通科目（成蹊教養カリキュラム）、(2)専門科目（経営学部開設科目）、(3)自己設計科目、から成ります。

- (1)成蹊教養カリキュラムは、教養教育を担い、大学での学修の基礎となる知識やスキルを身に付けるとともに、市民性・公共性を育むことを目指しています。「広い教養と汎用性の高い技能を修得する」というカリキュラム・ポリシー（CP2）に基づき、成蹊教養カリキュラムでは、技法知・学問知・実践知をバランスよく習得するために、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の4区分を大きな柱として科目を配置しています。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的（成蹊教養カリキュラム）

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル（汎用的技能）」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育んでいきます。（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

科目群と科目の種類（成蹊教養カリキュラム、教職課程科目）

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています（「健康・スポーツ科目」を除く）。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English（Listening & Speaking）I・II」、「College English（Reading & Writing）I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English（Integrated Skills）I・II」を履修します。（グローバル教育プログラム（EAGLE）所属学生は「College English（Integrated Skills）I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。）他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」（1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり）、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」（3年履修登録時に選抜あり）など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演

習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。一部の科目を除き、卒業に必要な単位には含まれませんので、注意してください。教職課程の履修については、別途配布される『教職課程履修ガイド』で確認してください。

各科目群の教育目的（経営学部開設科目）

経営学部では学部開設科目（ならびに成蹊教養カリキュラム）の履修を通じて、人文科学、社会科学、自然科学およびこれらにまたがる幅広い視野で思考・判断できる能力を有し、経営学の基礎的な概念と理論および経営学の各専門分野を理解していることに加え、国際文化や情報コミュニケーション技術に関する知識をあわせもつことで、企業や企業の経営活動に関する諸問題を柔軟かつ適応的に解決できる実践的な総合マネジメント能力を修得した、職業人の育成を目指しています。

科目群と科目の種類（経営学部開設科目、自己設計科目）

経営学部開設科目の科目群は以下の通りです。前掲の『カリキュラムの構造』の「科目の構成」も参照してください。

■ 演習科目

学年ごとにアクティブ・ラーニングの演習科目を設け、1年次前期に開講される「基礎演習」、及び3年次前期の「経営専門演習Ⅰ」と3年次後期の「経営専門演習Ⅱ」、さらには4年次の「経営卒業研究」を必修としています。

■ 専門基幹科目

（経営経済基礎科目）

経営学の最も基礎的な内容の科目で、1年次前期に開講される「企業経営の基礎」と1年次後期に開講される「企業会計の基礎」を、それぞれ、経営学部の学生として必ず学修すべき経営学と会計学の最も基礎的な内容を修得することができる科目として、必修としています。また、1年次前期の「会社のしくみと制度」は、経営学部の学生に会社の社会的役割や会社で働くことを理解させ、会社に対して関心や興味を持たせる科目であり、1年次前期の「ミクロ経済学の基礎」、1年次後期の「マクロ経済学の基礎」および「統計の基礎」は、もともと学際的な性格が強い学問分野である経営学に非常に関係深い学問分野である経済学、統計学の基礎的な知識を修得する科目です。

（経営専門基礎科目）

経営学の3つの基本的科目領域である、戦略とマーケティング領域、組織と人間領域、ファイナンスと会計領域や、それらの複合的な領域に属する基礎的な科目です。いずれも2年次前期から履修可能です。戦略とマーケティング領域の科目として「経営戦略」と「マーケティング」、組織と人間領域の科目として「人間行動と組織」、ファイナンスと会計領域の科目として「ファイナンスの基礎」と「基

本簿記」、そして、共通領域の法律関係科目として「ビジネス法の基礎」、また、経営学全般に関わる基幹的な科目として「ゲーム理論」、さらに、経営学の専門科目群と学際科目群の学修を連結させる役割を想定して、連結される学際科目群としてグローバルと文化領域の科目群が直接的には意識される「国際経営」と、連結される学際科目群として情報分析領域の科目群が直接的には意識される「経営情報」があります。

■ 専門応用発展科目

特に経営学の深い専門知識のさらなる修得を目指した応用発展的な科目を、経営資源別に取り扱っている内容を見て、主にヒトに関わる組織と人間の領域の科目、モノ（商品）に関わる戦略とマーケティングの領域の科目、カネに関わるファイナンスと会計の科目領域の科目と、3つの科目領域に振り分けて提供するとともに、企業経営を学ぶ上で重要な法律科目と「経営学特殊講義A・B」、さらに次年度に卒業研究を控えた3年次後期に履修すべき、卒業研究の方法論に関わる科目「ロジカル・シンキング&ライティング」「実証研究の方法」「ケーススタディの方法」を共通領域の科目として提供します。

教育課程上、卒業研究の方法論に関わる上記3科目を除いて2年次前期か後期から履修可能で、原則として、前期開講の科目はその領域の中でより基本的であると考えられる内容のものであり、後期開講の科目はより応用性が高いものになる予定です。科目領域ごとに卒業に必要な単位数の要件が設けられており、1つの領域に著しく偏ることのない学修を進めることとなります。

さらに、3つの科目領域ごとに2年次配当の演習科目として「戦略的問題解決型プロジェクト演習（S-PBL: Strategic Project-based Learning Seminar）」が開講される予定です。これは、当該科目領域で課題とされる企業経営上の具体的な諸問題を、授業担当者の指導のもとで履修学生が当該科目領域の学問的知識を使って議論し、解決することを目指す、より実践色の強い科目です。

■ 学際科目

企業経営の問題をより広い視点から認識できるように、経営学と関連する学際領域の科目を、情報分析領域、グローバルと文化領域、実践キャリア創造領域の3つの関連領域に振り分けて提供するとともに、それ以外に「学際特殊講義」を提供します。

■ 高度学際科目

（高度情報分析科目）

データ分析能力を高める科目として「総合分析A・B」、自己の主張や意見のプレゼンテーション能力を高める科目として「マルチメディアプレゼンテーションA・B」があり、授業担当者の指導のもとで履修学生が主体的に企画・調査し、分析を行い、結果をプレゼンテーションする演習科目として「情報分析演習」があります。そして、その時々で必要性が高いと認められる情報関連の授業内容を「情報分析特殊講義」として提供します。いずれも2年次から履修可能です。

（高度グローバル科目（EAGLE））

※ 後掲の『グローバル教育プログラム（EAGLE）』を参照してください。

■ 広域基礎科目

教育職員免許状の中学校一種（社会）及び高等学校一種（公民）の免許状を取得しようとしている者を対象とし、教職課程における一般的包括的内容を学ぶ科目群です。日本史、外国史、地理学（以上、中学社会）、政治学（中学社会、高校公民）に関する科目から成ります。科目群「広域基礎科目」の科目は教職課程登録者のみ履修することができます。いずれも2年次から履修可能です。

■ 自己設計科目

成蹊教養カリキュラム、経営学部開設科目の各科目区分に定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位、他学部履修によって修得した単位、単位互換で修得した単位が合わせて20単位まで卒業に必要な修得単位数に算入されます。自分の興味や将来の目標などに応じて、長期的な履修計画を立て、有効に活用してください。

科目の種類

■ 授業時期・期間による科目の種類は以下の通りです。

名 称	授業期間 ※	履修登録の時期	成績の公表時期 ※
前期科目	4月～7月	前期	9月
後期科目	9月～翌年1月	前期または後期	3月
通年科目	4月～翌年1月	前期	3月
集中講義科目	9月上旬	前期	10月

※ 授業期間、成績の公表時期の詳細は『履修成績関係日程』を参照してください。

■ 履修方法による科目の種類は以下の通りです。

名 称	概 要
必修科目	卒業資格の認定を得るために、必ず単位を修得しなければならない科目です。
登録必須科目	大学が履修を推奨する科目です。必ず履修しなければならない科目です。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。
選択科目	選択して履修することができる科目です。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外国語									
英語 科目	必修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選択 必修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○							
		College English (Integrated Skills) I ○				College English (Integrated Skills) II ○			
	資格 試験	TOEFL Preparation Introduction ○ TOEFL Preparation Intermediate ○ TOEIC Preparation Introduction ○ TOEIC Preparation Intermediate ○ IELTS Preparation Introduction ○ IELTS Preparation Intermediate ○							
		英語力強化科目 基礎からのコミュニケーション英文法② 自分でデザインする英語学習② 英語発音トレーニング② 英語読解トレーニング②							
	スキル 強化 科目	Presentation Skills Basic② Discussion Skills Basic② Writing Skills (Paragraph)② Presentation Skills Intermediate② Discussion Skills Intermediate② Writing Skills (Essay)②							
		英語発展科目		多読で学ぶ英語と文化 I ② 映画で学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化② キャリアのための英語と文化②			多読で学ぶ英語と文化 II ② ドラマで学ぶ英語と文化② メディアで学ぶ英語と文化②		
	択	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced ○							
Advanced English		TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○ Media English② Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Workplace② Essay Writing② Intensive Reading② World Englishes②							
初修外国語科目	コ ア	ドイツ語基礎 A I ○		ドイツ語基礎 B I ○		フランス語基礎 A I ○		フランス語基礎 B I ○	
		フランス語基礎 B I ○		スペイン語基礎 A I ○		スペイン語基礎 B I ○		韓国語基礎 B I ○	
		中国語基礎 A I ○		中国語基礎 B I ○		韓国語基礎 A I ○		韓国語基礎 B I ○	
		ドイツ語基礎 A II ○		ドイツ語基礎 B II ○		フランス語基礎 A II ○		フランス語基礎 B II ○	
		フランス語基礎 A II ○		フランス語基礎 B II ○		スペイン語基礎 A II ○		スペイン語基礎 B II ○	
		中国語基礎 A II ○		中国語基礎 B II ○		韓国語基礎 A II ○		韓国語基礎 B II ○	
		韓国語基礎 A II ○		韓国語基礎 B II ○					

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②	
		フランス語演習コミュニケーションⅠ②		フランス語演習コミュニケーションⅡ②		フランス語演習コミュニケーションⅢ②		フランス語演習コミュニケーションⅣ②	
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		スペイン語演習コミュニケーションⅡ②		スペイン語演習コミュニケーションⅢ②		スペイン語演習コミュニケーションⅣ②		
	中国語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅡ②		中国語演習コミュニケーションⅢ②		中国語演習コミュニケーションⅣ②		
	韓国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅡ②		韓国語演習コミュニケーションⅢ②		韓国語演習コミュニケーションⅣ②		
発展B群	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅲ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅱ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅳ②		
	フランス語演習言語と文化Ⅰ②		フランス語演習言語と文化Ⅲ②		フランス語演習言語と文化Ⅱ②		フランス語演習言語と文化Ⅳ②		
発展C群	ドイツ語演習検定対策Ⅰ②		ドイツ語演習検定対策Ⅲ②		ドイツ語演習検定対策Ⅱ②		ドイツ語演習検定対策Ⅳ②		
	フランス語演習検定対策Ⅰ②		フランス語演習検定対策Ⅲ②		フランス語演習検定対策Ⅱ②		フランス語演習検定対策Ⅳ②		
発展D群	スペイン語演習検定対策Ⅰ②		スペイン語演習検定対策Ⅲ②		スペイン語演習検定対策Ⅱ②		スペイン語演習検定対策Ⅳ②		
	中国語演習検定対策Ⅰ②		中国語演習検定対策Ⅲ②		中国語演習検定対策Ⅱ②		中国語演習検定対策Ⅳ②		
E群	韓国語演習検定対策Ⅰ②		韓国語演習検定対策Ⅲ②		韓国語演習検定対策Ⅱ②		韓国語演習検定対策Ⅳ②		
	韓国語演習検定対策Ⅲ②		韓国語演習検定対策Ⅳ②						
	E群	世界の言語①							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
		日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
	発 展	古典に学ぶ日本語表現②						
		実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
	発 展	ビジネストレーニングセミナー②						
		キャリアセミナー② キャリア発展講義②		グローバルキャリアセミナー② 日本企業の現状と展望②				
		インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習②						
		Global Career Design②						
情報基盤科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用D② Python 入門②	情報活用B② 情報活用E② データサイエンス入門②	情報活用C② 情報活用F②				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②	倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②	現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②	現代社会と倫理学② 教育心理学②				
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②	経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②	社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②	日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②				
自然科学	物質の究極像② 薬はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②	人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②	脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②	天文学入門② 科学技術の発展と歴史②				
持 続 社 会 探 究								
環境・地域		地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②	気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②	自然環境と文明②				
国際理解		戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②	近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②	近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②				
人権・共生		裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②	生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②	地域福祉論② 高齢者福祉論②				
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②	情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②	野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②					
	Global Studies Seminar I ②							
	Global Studies Seminar II ②							
	Global Studies Seminar III ②							

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル（汎用的技能）」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育んでいきます。（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

科目群と科目の種類

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています（「健康・スポーツ科目」を除く）。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English（Listening & Speaking）I・II」、「College English（Reading & Writing）I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English（Integrated Skills）I・II」を履修します。（グローバル教育プログラム（EAGLE）所属学生は「College English（Integrated Skills）I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。）他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」（1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり）、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」（3年履修登録時に選抜あり）など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演

習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。一部の科目を除き、卒業に必要な単位には含まれませんので、注意してください。教職課程の履修については、別途配布される『教職課程履修ガイド』で確認してください。

■ 理工学部開設科目

理工学部開設科目は、各科目群の中でも以下のように区分されています。

(1) 専門科目

① 科学技術者としての基礎

動機付け、コンピュータの利用、倫理・法規で構成されています。大学での勉強の動機付けと意欲向上を図ると同時に、専門研究や社会への意識を高め、学部生活での目的、将来の目標を達成するための履修計画を立てるヒントを提供する授業です。また、科学技術における倫理や法規を学ぶのは、社会での実践的スキルの修得を目的としているためです。

② 理工学の基礎

科学の基礎となる数学、物理、化学、生物の講義科目と理学基礎実験は、全学科共通の重要科目です。ここで基礎的な学力を確実に身に付け、専門分野を学ぶための基盤を作ります。

③ 専門科目

学科ごとに、専門分野に共通の基礎的な知識と技法を学んだのち、テーマをより絞った専門性の高い科目群によって社会での実践的知識を身に付けます。さらに、充実した実験・実習を通して実践的に専門知識、技術を体得します。

(2) 学部共通科目

① 一般共通科目

理工学部に共通の専門性をもった科目群です。いずれも高学年での学習や卒業研究、また卒業後に社会人として必要となる技術・知識を身につけることや、学科の枠を超えた理工学の専門知識を学ぶことを目的とした科目で構成されています。

② Global Studies 科目

経済とビジネスから国際関係、日本と世界の文化まで、バラエティ豊かなテーマを英語での授業を中心に、外国人留学生も参加して学びます。

③ 上級共通科目

理工学特別選抜コースに所属している学生を対象に開講する科目群です。社会をリードする人材として、教養、専門的な知識に加え、他者とコミュニケーションをとりながら自らの意見を発信する能力を身につけることを目的とした科目で構成されています。

(3) 自由設計科目

「自由設計科目」には卒業に必要な単位数が設定されていますが、この分野には具体的な科目が存在しません。自身の興味や将来の目標などに応じて、成蹊教養カリキュラム、理工学部開設科目の各科目に加えて、単位認定科目、他学部・他学科科目、単位互換科目から自由に選択して学修することができます。長期的な履修計画を立て、有効に活用してください。

自由設計科目の卒業所要単位数には、次の単位数を算入します。

- ① 全学共通科目および専門科目の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数
- ② 学部共通科目の修得単位数が4単位数を超えた場合、その超過単位数
- ③ 他大学との単位互換科目、他学科開講専門科目および他学部開講科目の修得単位数

科目の種類

■ 履修方法による科目の種類は以下の通りです。

科目の種類	履 修 方 法
必修科目	卒業資格の認定を得るために、必ず単位を修得しなければならない科目です。各科目の配当年次にあらかじめ登録されています。
登録必須科目	大学が単位修得を推奨する科目です。必ず履修しなければなりません。各科目の配当年次にあらかじめ登録されています。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。
準必修科目	必修に準ずる科目です。 科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目です。 学科ごとに修得する単位数が定められています。
選択科目	科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目です。 学科ごとに修得する単位数が定められています。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外 国 語									
英 語 科 目	必 修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選 択 必 修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○							
		College English (Integrated Skills) I ○				College English (Integrated Skills) II ○			
	資 格 試 験	TOEFL Preparation Introduction ○ TOEFL Preparation Intermediate ○ TOEIC Preparation Introduction ○ TOEIC Preparation Intermediate ○ IELTS Preparation Introduction ○ IELTS Preparation Intermediate ○							
		英語力 強 化 科 目	基礎からのコミュニケーション英文法② 自分でデザインする英語学習② 英語発音トレーニング② 英語読解トレーニング②						
	ス キ ル 強 化 科 目	Presentation Skills Basic② Discussion Skills Basic② Writing Skills (Paragraph)② Presentation Skills Intermediate② Discussion Skills Intermediate② Writing Skills (Essay)②							
	英 語 発 展 科 目			多読で学ぶ英語と文化 I ② 映画で学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化② キャリアのための英語と文化②			多読で学ぶ英語と文化 II ② ドラマで学ぶ英語と文化② メディアで学ぶ英語と文化②		
	Advanced English	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced ○							
TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○									
初 修 外 国 語 科 目	コ ア	ドイツ語基礎A I ○ ドイツ語基礎B I ○ フランス語基礎A I ○ フランス語基礎B I ○ スペイン語基礎A I ○ スペイン語基礎B I ○ 中国語基礎A I ○ 中国語基礎B I ○ 韓国語基礎A I ○ 韓国語基礎B I ○							
		ドイツ語基礎A II ○ ドイツ語基礎B II ○ フランス語基礎A II ○ フランス語基礎B II ○ スペイン語基礎A II ○ スペイン語基礎B II ○ 中国語基礎A II ○ 中国語基礎B II ○ 韓国語基礎A II ○ 韓国語基礎B II ○							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②	
		フランス語演習コミュニケーションⅠ②		フランス語演習コミュニケーションⅡ②		フランス語演習コミュニケーションⅢ②		フランス語演習コミュニケーションⅣ②	
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		スペイン語演習コミュニケーションⅡ②		スペイン語演習コミュニケーションⅢ②		スペイン語演習コミュニケーションⅣ②		
	中国語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅡ②		中国語演習コミュニケーションⅢ②		中国語演習コミュニケーションⅣ②		
	韓国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅡ②		韓国語演習コミュニケーションⅢ②		韓国語演習コミュニケーションⅣ②		
発展B群	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅲ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅱ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅳ②		
	フランス語演習言語と文化Ⅰ②		フランス語演習言語と文化Ⅲ②		フランス語演習言語と文化Ⅱ②		フランス語演習言語と文化Ⅳ②		
発展C群	ドイツ語演習検定対策Ⅰ②		ドイツ語演習検定対策Ⅲ②		ドイツ語演習検定対策Ⅱ②		ドイツ語演習検定対策Ⅳ②		
	フランス語演習検定対策Ⅰ②		フランス語演習検定対策Ⅲ②		フランス語演習検定対策Ⅱ②		フランス語演習検定対策Ⅳ②		
発展D群	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅢ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅣ②		
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ②		フランス語演習プレゼンテーションⅡ②		フランス語演習プレゼンテーションⅢ②		フランス語演習プレゼンテーションⅣ②		
E群	世界の言語①								

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
		日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
	発 展	古典に学ぶ日本語表現②						
		実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
	発 展	ビジネストレーニングセミナー②						
		キャリアセミナー② キャリア発展講義②		グローバルキャリアセミナー② 日本企業の現状と展望②				
		インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習②					Global Career Design②	
情報基盤科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用D② Python 入門②	情報活用B② 情報活用E②	情報活用C② 情報活用F② データサイエンス入門②				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②	倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②	現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②	現代社会と倫理学② 教育心理学②				
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②	経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②	社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②	日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②				
自然科学	物質の究極像② 葉はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②	人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②	脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②	天文学入門② 科学技術の発展と歴史②				
持 続 社 会 探 究								
環境・地域		地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②	気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②	自然環境と文明②				
国際理解		戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②	近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②	近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②				
人権・共生		裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②	生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②	地域福祉論② 高齢者福祉論②				
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②	情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②	野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②					
	Global Studies Seminar I ②							
	Global Studies Seminar II ②							
	Global Studies Seminar III ②							

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

物質生命理工学科 卒業・進級要件

(2020・21年度入学生適用)

科目区分				必要単位数				
				1年→2年	2年→3年	3年→4年	卒業要件	
全 学 共 通 科 目	外国語	英語 科目	必修				4	12
			選択 必修				2	
			選択					
		初修外国語科目						
	技 能	日本語力科目						
		キャリア教育科目						
		情報基盤科目						
		健康・スポーツ科目						
	教養基礎	人文学						8
		社会科学						
		自然科学						
	持続社会 探 究	環境・地域						
		国際理解						
人権・共生 実践								
全学共通科目 合計							24	
専 門 科 目	必 修 科 目			20	38*4	56*5	41	
	準 必 修 科 目*1						24	49
	選 択 科 目							
	専 門 科 目 合 計					74	90	
学部共通科目*2								
自由設計科目*3							10	
総 合 計				35	70	105	124	

- 注 *1 準必修科目の修得単位数が卒業所要単位数（24単位）を超えた場合、その超過単位数を専門選択科目の単位数に算入する。
- *2 学部共通科目の修得単位数は、4単位まで専門選択科目の単位数に算入する。
- *3 自由設計科目の卒業所要単位数には、次の単位数を算入する。
 (1) 全学共通科目および専門科目の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数
 (2) 学部共通科目の修得単位数が4単位を超えた場合、その超過単位数
 (3) 他大学との単位互換科目、他学科開講専門科目および他学部開講科目の修得単位数
- 2年→3年
 *4 「実験基礎講座」の単位を必ず含むこと。
- 3年→4年
 *5 「物質生命実験Ⅰ」「物質生命実験Ⅱ」「物質生命実験Ⅲ」「物質生命実験Ⅳ」「物質生命論講Ⅰ」の単位を必ず含むこと。

情報科学科 卒業・進級要件

(2020・21年度入学生適用)

科目区分			必要単位数					
			1年→2年	2年→3年	3年→4年	卒業要件		
全 学 共 通 科 目	外国語	必修				4	12	
		英語 科目	選択 必修					2
			選択					
		初修外国語科目						
	技 能	日本語力科目						
		キャリア教育科目						
		情報基盤科目						
		健康・スポーツ科目						
	教養基礎	人文学						8
		社会科学						
		自然科学						
	持続社会 探 究	環境・地域						
国際理解								
人権・共生 実践								
全学共通科目 合計						24		
専 門 科 目	必 修 科 目		14	21	28*6	36		
	準 必 修 科 目*1	数学				36	54	
		プログラミングと ソフトウェア						
		全分野						
		所属コース						
	選 択 科 目*2							
専門科目 合計					90			
学部共通科目*3								
自由設計科目*4						10		
総 合 計			30	70	110	124*5		

(注)

- *1 準必修科目の修得単位数が卒業所要単位数（36単位）を超えた場合、その超過単位数を専門選択科目の単位数に算入する。
- *2 準必修科目である他コース科目の修得単位数は、全て専門選択科目の単位数に算入する。
- *3 学部共通科目の修得単位数は、4単位まで専門選択科目の単位数に算入する。
- *4 自由設計科目の卒業所要単位数には、次の単位数を算入する。
 - (1) 全学共通科目および専門科目の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数
 - (2) 学部共通科目の修得単位数が4単位を超えた場合、その超過単位数
 - (3) 他大学との単位互換科目、他学科開講専門科目および他学部開講科目の修得単位数
- *5 「物理学入門」は卒業所要単位に含めない。
- 3年→4年
 - *6 「情報科学プロジェクト実験」の単位を必ず含むこと。

システムデザイン学科 卒業・進級要件
(2020・21年度入学生適用)

科目区分				必要単位数				
				1年→2年	2年→3年	3年→4年	卒業要件	
全 学 共 通 科 目	外国語	英語 科目	必修				4	12
			選択 必修				2	
			選択					
		初修外国語科目						
	技 能	日本語力科目						
		キャリア教育科目						
		情報基盤科目						
		健康・スポーツ科目						
	教養基礎	人文学						8
		社会科学						
自然科学								
持続社会 探 究	環境・地域							
	国際理解							
	人権・共生							
	実践							
全学共通科目 合計							24	
専 門 科 目	必 修 科 目						42	
	準 必 修 科 目* ¹						16	
	選 択 科 目* ²	コース共通					8	48
		所属コース1					10	
		所属コース2					10	
		他コース						
専門科目 合計					40	75* ⁵	90	
学部共通科目* ³								
自由設計科目* ⁴							10	
総 合 計				35	70	105	124	

(注)

- *1 準必修科目の修得単位数が卒業所要単位数（16単位）を超えた場合、その超過単位数を専門選択科目の他コースの単位数に算入する。
- *2 専門選択科目のコース共通・所属コース1・所属コース2の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数を専門選択科目の他コースの単位数に算入する。
- *3 学部共通科目の修得単位数は、4単位まで専門選択科目の他コースの単位数に算入する。
- *4 自由設計科目の卒業所要単位数には、次の単位数を算入する。
 - (1) 全学共通科目および専門科目の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数
 - (2) 学部共通科目の修得単位数が4単位を超えた場合、その超過単位数
 - (3) 他大学との単位互換科目、他学科開講専門科目および他学部開講科目の修得単位数
- *5 4年への進級には「物理学実験」「化学実験」「システムデザイン実験Ⅰ」「システムデザイン実験Ⅱ」の単位を必ず含むこと。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的

■ 成蹊教養カリキュラム (全学共通科目)

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル (汎用的技能)」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育んでいきます。(以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。)

科目群と科目の種類

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています(「健康・スポーツ科目」を除く)。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English (Listening & Speaking) I・II」、「College English (Reading & Writing) I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English (Integrated Skills) I・II」を履修します。(グローバル教育プログラム (EAGLE) 所属学生は「College English (Integrated Skills) I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。)他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」(1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり)、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」(3年履修登録時に選抜あり)など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演

習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。一部の科目を除き、卒業に必要な単位には含まれませんので、注意してください。教職課程の履修については、別途配布される『教職課程履修ガイド』で確認してください。

■ 理工学部開設科目

理工学部開設科目は、各科目群の中でも以下のように区分されています。

(1) 理工学科専門科目

① 社会人基礎力科目

職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要となる基礎的な力を身に付けるための科目群です。複雑化した社会の中で、個人として企業・組織・社会等と適切な関係を持ち、ライフステージの各段階で活躍の幅を広げるうえで役立つ関連知識やスキルを学ぶことを目的とした科目で構成されています。

② 専攻融合科目

各専攻で得られる専門性の高い知見を融合し、実社会で必要とされる広い視野と実践的な応用力を身につけるための科目で構成されています。また、特別プログラムを受講している学生を対象に開講される科目も配置されています。

③ ICT 基礎科目

情報化社会において技術者がそれぞれの専門性を発揮するために必要となる ICT 技術を身につけるための科目群です。理論と実践の双方の力を身に付けることで、具体的に行動を起こし活躍できる技術者となることを目的としています。

④ 理工学基礎科目

専攻コア科目、専攻応用科目を履修する上で必要な基盤を形成するための科目群であり、数学、物理学、化学、生物学、地学についての基礎的な内容に関する講義科目、演習科目、及び実験科目により構成されています。

⑤ 専攻コア科目

各専攻においてそれぞれ必修、またはそれに相当する内容を扱うための科目です。

⑥ 専攻応用科目

専攻コア科目で学修する各専攻の中心的な内容から応用別・分野別の専門内容をそれぞれで学修するための科目群です。自らが目指す専門と興味の双方から選択的に履修を行うことができます。

⑦ 専攻発展科目

自らが目指す専門や興味ある研究分野に基づいて、選択的により高度で先端的な科目を履修できるよう、基礎科目、専攻コア科目、専攻応用科目を更に発展させた内容の科目で構成されています。

(2) 自由設計科目

自由設計科目の卒業所要単位数には、次の単位数を算入します。

① Global Studies 科目の修得単位数

経済とビジネスから国際関係、日本と世界の文化まで、バラエティ豊かなテーマを英語での授業を中心に、外国人留学生も参加して学びます。

②全学共通科目および専門科目の修得単位数が卒業所要単位数を超えた場合、その超過単位数

③他大学との単位互換科目、他学部開講科目の修得単位数

「自由設計科目」には卒業に必要な単位数が設定されており、自身の興味や将来の目標などに応じて、成蹊教養カリキュラム、理工学部開設科目の各科目に加えて、単位認定科目、他学部科目、単位互換科目から自由に選択して学修することができます。長期的な履修計画を立て、有効に活用してください。

科目の種類

■ 履修方法による科目の種類は以下の通りです。

科目の種類	履 修 方 法
必修科目	卒業資格の認定を得るために、必ず単位を修得しなければならない科目です。各科目の配当年次にあらかじめ登録されています。
登録必須科目	大学が単位修得を推奨する科目です。必ず履修しなければなりません。各科目の配当年次にあらかじめ登録されています。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。
準必修科目	必修に準ずる科目です。 科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目です。 専攻ごとに修得する単位数が定められています。
選択科目	科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目です。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外国語									
英語 科目	必修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選択 必修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○							
		College English (Integrated Skills) I ○				College English (Integrated Skills) II ○			
	資格 試験	TOEFL Preparation Introduction ○ TOEFL Preparation Intermediate ○ TOEIC Preparation Introduction ○ TOEIC Preparation Intermediate ○ IELTS Preparation Introduction ○ IELTS Preparation Intermediate ○							
		基礎からのコミュニケーション英文法② 自分でデザインする英語学習② 英語発音トレーニング② 英語読解トレーニング②							
	選 強化 科目	Presentation Skills Basic② Discussion Skills Basic② Writing Skills (Paragraph)② Presentation Skills Intermediate② Discussion Skills Intermediate② Writing Skills (Essay)②							
		英語発展科目				多読で学ぶ英語と文化 I ② 多読で学ぶ英語と文化 II ② 映画で学ぶ英語と文化② ドラマで学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化② メディアで学ぶ英語と文化② キャリアのための英語と文化②			
	扱	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced ○							
Advanced English				TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○ Media English② Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Workplace② Essay Writing② Intensive Reading② World Englishes②					
初修外国語科目	コ ア	ドイツ語基礎A I ○		ドイツ語基礎B I ○		フランス語基礎A I ○			
		フランス語基礎B I ○		スペイン語基礎A I ○		スペイン語基礎B I ○		韓国語基礎B I ○	
		中国語基礎A I ○		中国語基礎B I ○		韓国語基礎A I ○			
		ドイツ語基礎A II ○		ドイツ語基礎B II ○		フランス語基礎A II ○		フランス語基礎B II ○	
		フランス語基礎A II ○		フランス語基礎B II ○		スペイン語基礎A II ○		スペイン語基礎B II ○	
		スペイン語基礎A II ○		スペイン語基礎B II ○		中国語基礎A II ○		中国語基礎B II ○	
		中国語基礎A II ○		中国語基礎B II ○		韓国語基礎A II ○		韓国語基礎B II ○	

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム										
	1年次		2年次		3年次		4年次				
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8			
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ② フランス語演習コミュニケーションⅠ② スペイン語演習コミュニケーションⅠ② 中国語演習コミュニケーションⅠ② 韓国語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ② フランス語演習コミュニケーションⅡ② スペイン語演習コミュニケーションⅡ② 中国語演習コミュニケーションⅡ② 韓国語演習コミュニケーションⅡ②							
				ドイツ語演習コミュニケーションⅢ② ドイツ語演習コミュニケーションⅣ② ドイツ語演習コミュニケーションⅤ② フランス語演習コミュニケーションⅢ② フランス語演習コミュニケーションⅣ② フランス語演習コミュニケーションⅤ② スペイン語演習コミュニケーションⅢ② スペイン語演習コミュニケーションⅣ② スペイン語演習コミュニケーションⅤ② 中国語演習コミュニケーションⅢ② 中国語演習コミュニケーションⅣ② 中国語演習コミュニケーションⅤ② 韓国語演習コミュニケーションⅢ② 韓国語演習コミュニケーションⅣ② 韓国語演習コミュニケーションⅤ②							
	発展B群			ドイツ語演習言語と文化Ⅰ② ドイツ語演習言語と文化Ⅲ② フランス語演習言語と文化Ⅰ② フランス語演習言語と文化Ⅲ② スペイン語演習言語と文化Ⅰ② スペイン語演習言語と文化Ⅲ② 中国語演習言語と文化Ⅰ② 中国語演習言語と文化Ⅲ② 韓国語演習言語と文化Ⅰ② 韓国語演習言語と文化Ⅲ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅱ② ドイツ語演習言語と文化Ⅳ② フランス語演習言語と文化Ⅱ② フランス語演習言語と文化Ⅳ② スペイン語演習言語と文化Ⅱ② スペイン語演習言語と文化Ⅳ② 中国語演習言語と文化Ⅱ② 中国語演習言語と文化Ⅳ② 韓国語演習言語と文化Ⅱ② 韓国語演習言語と文化Ⅳ②					
		発展C群			ドイツ語演習検定対策Ⅰ② ドイツ語演習検定対策Ⅲ② フランス語演習検定対策Ⅰ② フランス語演習検定対策Ⅲ② スペイン語演習検定対策Ⅰ② スペイン語演習検定対策Ⅲ② 中国語演習検定対策Ⅰ② 中国語演習検定対策Ⅲ② 韓国語演習検定対策Ⅰ② 韓国語演習検定対策Ⅲ②		ドイツ語演習検定対策Ⅱ② ドイツ語演習検定対策Ⅳ② フランス語演習検定対策Ⅱ② フランス語演習検定対策Ⅳ② スペイン語演習検定対策Ⅱ② スペイン語演習検定対策Ⅳ② 中国語演習検定対策Ⅱ② 中国語演習検定対策Ⅳ② 韓国語演習検定対策Ⅱ② 韓国語演習検定対策Ⅳ②				
	発展D群				ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ② ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ② フランス語演習プレゼンテーションⅠ② フランス語演習プレゼンテーションⅡ② スペイン語演習プレゼンテーションⅠ② スペイン語演習プレゼンテーションⅡ② 中国語演習プレゼンテーションⅠ② 中国語演習プレゼンテーションⅡ② 韓国語演習プレゼンテーションⅠ② 韓国語演習プレゼンテーションⅡ②						
E群	世界の言語①										

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
		日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
	発 展	古典に学ぶ日本語表現②						
		実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
	発 展	ビジネストレーニングセミナー②						
		キャリアセミナー② キャリア発展講義②		グローバルキャリアセミナー② 日本企業の現状と展望②				
		インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習②					Global Career Design②	
情報基盤科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用D② Python 入門②	情報活用B② 情報活用E② データサイエンス入門②	情報活用C② 情報活用F②				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②		倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②		現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②		現代社会と倫理学② 教育心理学②	
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②		経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②		社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②		日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②	
自然科学	物質の究極像② 葉はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②		人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②		脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②		天文学入門② 科学技術の発展と歴史②	
持 続 社 会 探 究								
環境・地域			地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②		気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②		自然環境と文明②	
国際理解			戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②		近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②		近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②	
人権・共生			裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②		生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②		地域福祉論② 高齢者福祉論②	
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②		情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②		野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②			
	Global Studies Seminar I ②							
	Global Studies Seminar II ②							
			Global Studies Seminar III ②					

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

卒業・進級要件

卒業要件

卒業するためには、以下の1～3に定められた単位を修得する必要があります。

表1 卒業に必要な修得単位数

科目区分			卒業に必要な修得単位数			
全学 共通 科目	外国語	英語科目	必修	4	12以上	24
			選択必修	2		
		選択				
	技 能	初修外国語科目				
		日本語力科目				
		キャリア教育科目				
		情報基盤科目	2*1			
	教養基礎	人文科学	8以上			
		社会科学				
		自然科学				
持続社会探究	環境・地域					
	国際理解					
	人権・共生					
	実践					
専門 科目	社会人基礎力科目	必修		4	20以上	90
		選択				
	専攻融合科目	選択				
		ICT基礎科目	必修	3		
			選択 A 群			
	選択 B 群					
	理工学基礎科目	必修	4			
		選択 A 群				
		選択 B 群				
		自由				
	専攻コア科目	0 群	7	40以上		
		1 群・2 群 共通				
		3 群				
		4 群				
		5 群				
	専攻応用科目	1 群				
		2 群				
		3 群				
4 群						
5 群						
専攻発展科目						
自由設計科目			10*2			

- * 1 情報基盤科目には、「情報基礎」の単位を含む。
- * 2 自由設計科目には、全学共通科目及び専門科目の卒業に必要な修得単位数を超えて修得した単位及び他学部において修得した単位並びに他大学において修得した単位を算入することができる。
- * 3 卒業には、各専攻の必修科目（下表 2）の修得及び準必修の科目（下表 3）で必要とされる修得単位数を修得する必要がある。

表 2 専攻ごとの必修科目

専攻名	科目名		
データ数理	数学演習Ⅰ①	数学演習Ⅱ①	微分積分学Ⅱ②
	線形代数学Ⅱ②	離散数学②	C++プログラミング実験Ⅰ①
	C++プログラミングⅠ②	C++プログラミングⅡ②	C++プログラミング実験Ⅱ①
	数理計画法②	アルゴリズムとデータ構造②	確率統計②
コンピュータ科学	数学演習Ⅰ①	数学演習Ⅱ①	微分積分学Ⅱ②
	線形代数学Ⅱ②	離散数学②	C++プログラミング実験Ⅰ①
	C++プログラミングⅠ②	C++プログラミングⅡ②	C++プログラミング実験Ⅱ①
	アルゴリズムとデータ構造②	確率統計②	
機械システム	物理学Ⅰ②	微分積分学Ⅱ②	線形代数学Ⅱ②
	機械力学Ⅰ②	インダストリアル・エンジニアリング②	CAD/CAMⅠ②
	材料力学Ⅰ②	機械工学実験②	流体力学Ⅰ②
	人間工学②		
電気電子	物理学Ⅰ②	物理学実験①	微分積分学Ⅱ②
	線形代数学Ⅱ②	物理学Ⅱ②	電気回路Ⅰ②
	電気電子工学概論①	電子回路Ⅰ②	プログラミングCⅠ②
	制御工学Ⅰ②	電気電子工学実験②	
応用化学	基礎化学のデータ解析②	化学数学②	化学実験①
	物理化学基礎②	有機化学基礎②	無機化学基礎②
	生物化学基礎②	分析化学基礎②	応用化学実験Ⅰ②
	応用化学演習Ⅰ①	応用化学実験Ⅱ②	応用化学実験Ⅲ②
	応用化学演習Ⅱ①	応用化学演習Ⅲ①	

※また、前掲『カリキュラム科目一覧』にあるように、表 2 に加え理工学科共通の必修科目が定められていますので注意してください。理工学科共通の必修科目は以下の通りです。

科目区分		科目名
専門科目	社会人基礎力科目	アカデミックスキルズⅠ①
		アカデミックスキルズⅡ①
		PBLⅠ①
		PBLⅡ①
	ICT基礎科目	プログラミング基礎①
		コンピュータ基礎②
	理工学基礎科目	微分積分学Ⅰ②
		線形代数学Ⅰ②
	専攻コア科目	輪講①
		卒業研究Ⅰ③
		卒業研究Ⅱ③

表3 準必修（選択必修）の科目の修得表

専攻名	科目名			必要な 修得単位数
データ数理	データベース②	情報理論②	数値計算②	36
	人工知能②	データマイニング②	物理学Ⅰ②	
	物理学Ⅱ②	応用フーリエ解析②	微分方程式②	
	代数学②	幾何学②	C++プログラミングⅢ②	
	確率論②	組合せ論②	形式言語とオートマトン②	
	データ解析法②	最適化モデリング②	アルゴリズムデザイン②	
	機械学習②	熱・統計力学Ⅰ②	最適化理論②	
	メカニズムデザイン②	多変量データ解析②	応用機械学習②	
	オペレーションズリサーチ②	計算理論②	ビッグデータ解析②	
	統計モデリング②			
コンピュータ 科学	Javaプログラミング②	IoTプログラミング②	関数型プログラミング②	36
	データベース②	情報理論②	数値計算②	
	人工知能②	データマイニング②	応用フーリエ解析②	
	代数学②	C++プログラミングⅢ②	数理計画法②	
	IPネットワーク②	デジタルシステム②	ユーザインタフェース②	
	メディア技術概論②	音声処理②	画像処理②	
	コンピュータシステム②	Web技術②	オペレーティングシステム②	
	CG技術②	パターン認識②	情報セキュリティ②	
	プログラミング言語②	情報通信②	自然言語処理②	
	ニューラルネットワーク②	ソフトウェア設計②	並列分散処理②	
機械システム	物理学Ⅱ②	確率統計基礎②	微分方程式②	30
	制御工学Ⅰ②	熱力学Ⅰ②	ヒューマンファクターズ②	
	設計工学②	応用Pythonプログラミング②	シミュレーション基礎②	
	ヒューマンインタフェース②	経済性工学Ⅰ②	機械力学Ⅱ②	
	機械加工学②	人工知能基礎②	生産システム工学②	
	熱力学Ⅱ②	CAD/CAMⅡ②	材料力学Ⅱ②	
電気電子	流体力学Ⅱ②			22
	化学概論②	化学実験①	確率統計基礎②	
	CAD/CAMⅠ②	電気数学②	電気回路Ⅱ②	
	電磁気学Ⅰ②	ロボット工学②	電子回路Ⅱ②	
	電子固体物性②	半導体基礎②	プログラミングCⅡ②	
応用化学	電気電子計測②	電気回路Ⅲ②	電磁気学Ⅱ②	25
	生物学概論②	生物学実験①	応用化学特別講義Ⅰ②	
	化学工学基礎②	化学熱力学②	有機反応機構②	
	錯体化学②	応用化学特別講義Ⅱ②	サイエンスプログラミング②	
	反応速度論②	有機立体化学②	固体化学②	
	細胞生化学②	機器分析②	マテリアルズインフォマティクス②	
	バイオインフォマティクス②			

進級要件

各専攻ではそれぞれ進級するために必要な単位数が定められています。進級要件は次の通りです。

■データ数理専攻

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
専門必修科目(※)	14	22	28 ^{*1}
総合計	35	70	110

*1 4年への進級には「PBLⅡ」の単位を必ず含むこと。

※専門必修科目は、『専攻ごとの履修要件』で確認してください。

■コンピュータ科学専攻

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
専門必修科目(※)	15	22	29
総合計	35	70	110

※専門必修科目は、『専攻ごとの履修要件』で確認してください。

■機械システム専攻

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
専門必修+専門 準必修科目(※)	16	40	
専門科目 合計			79 ^{*1*2}
総合計	35	70	110

*1 4年への進級には「機械工学実験」「PBLⅠ」「PBLⅡ」の単位を必ず含むこと。

*2 機械システム専攻開講(※)の専攻コア科目、専攻応用科目、専攻発展科目からの修得単位数が50単位以上であること。

※専門必修科目、専門準必修科目および機械システム専攻開講科目は、『専攻ごとの履修要件』で確認してください。

■電気電子専攻

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
専門科目 合計		40	75 ^{*1}
総合計	35	70	110

*1 4年への進級には「電気電子工学実験」「PBLⅠ」の単位を必ず含むこと。

■応用化学専攻

	1年→2年	2年→3年	3年→4年
総合計	35	70 ^{*1}	110 ^{*2*3}

*1 3年への進級には「化学実験」「応用化学実験Ⅰ」の単位を必ず含むこと。

*2 4年への進級には「応用化学実験Ⅱ」「応用化学実験Ⅲ」「PBLⅠ」「PBLⅡ」の単位を必ず含むこと。

*3 応用化学専攻開講(※)の専攻発展科目の単位を10単位以上修得していること。

※応用化学専攻開講科目は、『専攻ごとの履修要件』で確認してください。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル（汎用的技能）」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育てていきます。（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

科目群と科目の種類

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています（「健康・スポーツ科目」を除く）。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English (Listening & Speaking) I・II」、「College English (Reading & Writing) I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English (Integrated Skills) I・II」を履修します。（グローバル教育プログラム（EAGLE）所属学生は「College English (Integrated Skills) I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。）他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」（1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり）、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」（3年履修登録時に選抜あり）など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演

習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

■ 専門科目

各学科の専門科目の区分は、以下のとおりです。学科での学修・研究の柱になる領域の科目が設置されています。

専門科目に属する授業科目は、必修科目と選択科目に分かれます。

必修科目…卒業までに必ず修得しなければならない科目

選択科目…その科目群の中で、学生が自由に選択して履修する科目

学科ごとに修得する単位数が定められています。カリキュラム科目一覧を参考にし、履修計画を立ててください。

英語英米 文学科	必修科目	英語必修科目、演習科目
	選択科目	メインフォーカス、他フォーカス、英語選択科目、関連科目
日本文 学科	必修科目	基礎科目、基本ゼミ科目
	選択科目	文学史科目、日本語学講義科目、日本文学講義科目、学際科目、日本探究科目、日本語力錬成科目
国際文化 学科	必修科目	演習系科目
	選択必修科目	国際関係科目、文化人類学科目、歴史・文化研究科目
	選択科目	広域科目、広域基礎科目
現代社会 学科	必修科目	必修専門、演習科目
	選択科目	社会学基礎、社会学発展、調査科目、メディア研究基礎、メディア研究発展、実践科目、現代社会研究、広域基礎科目

■ 自由設計科目

学科専門科目以外の学部固有科目や芸術文化行政コース開設科目、日本語教員養成コース開設科目、EAGLE科目、他学科・他学部・他大学開講科目などがあります。

卒業所要単位数に算入される単位数は、学科によって異なりますので、注意してください。

文学部共通科目	トピック・セミナー、ことばの世界、東洋文庫連携科目、芸術文化行政コース開設科目、日本語教員養成コース開設科目、文学部総合講義
複合・学際科目	全学共通科目超過単位、EAGLE科目、他学科・他学部・他大学

■ 教職課程科目

教育職員免許状取得希望者のための科目です。

卒業に必要な単位にはなりません。教職課程の履修については、別途配布される「教職課程履修ガイド」で確認してください。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外 国 語									
英 語 科 目	必 修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選 択 必 修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○ College English (Integrated Skills) I ○ College English (Integrated Skills) II ○							
	資 格 試 験	TOEFL Preparation Introduction○ TOEFL Preparation Intermediate○ TOEIC Preparation Introduction○ TOEIC Preparation Intermediate○ IELTS Preparation Introduction○ IELTS Preparation Intermediate○							
		英語力強化科目 基礎からのコミュニケーション英文法② 自分でデザインする英語学習② 英語発音トレーニング② 英語読解トレーニング②							
	選 目	スキル強化科目 Presentation Skills Basic② Discussion Skills Basic② Writing Skills (Paragraph)② Presentation Skills Intermediate② Discussion Skills Intermediate② Writing Skills (Essay)②							
		英語発展科目 多読で学ぶ英語と文化Ⅰ② 多読で学ぶ英語と文化Ⅱ② 映画で学ぶ英語と文化② ドラマで学ぶ英語と文化② 歌で学ぶ英語と文化② メディアで学ぶ英語と文化② キャリアのための英語と文化②							
	扱	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced○							
		Advanced English TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○ Media English② Academic Listening② Cross Cultural Communication Skills② Discussion & Presentation② English for the Workplace② Essay Writing② Intensive Reading② World Englishes②							
初修外国語科目	コ ア	ドイツ語基礎A I ○ ドイツ語基礎B I ○ フランス語基礎A I ○ フランス語基礎B I ○ スペイン語基礎A I ○ スペイン語基礎B I ○ 中国語基礎A I ○ 中国語基礎B I ○ 韓国語基礎A I ○ 韓国語基礎B I ○							
		ドイツ語基礎A II ○ ドイツ語基礎B II ○ フランス語基礎A II ○ フランス語基礎B II ○ スペイン語基礎A II ○ スペイン語基礎B II ○ 中国語基礎A II ○ 中国語基礎B II ○ 韓国語基礎A II ○ 韓国語基礎B II ○							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ②		フランス語演習コミュニケーションⅡ②		スペイン語演習コミュニケーションⅡ②	
		フランス語演習コミュニケーションⅠ②		スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅡ②	
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅡ②		
	中国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②		
	韓国語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
発展B群	ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
	ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
発展C群	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
発展D群	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
	ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅤ②		
E群	世界の言語①								

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
	発 展	日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
日本語力科目	コ ア	古典に学ぶ日本語表現②						
	発 展	実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
	発 展	ビジネストレーニングセミナー② キャリアセミナー② グローバルキャリアセミナー② キャリア発展講義② 日本企業の現状と展望② インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習② Global Career Design②						
情報基盤科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用B② 情報活用C② 情報活用D② 情報活用E② 情報活用F② Python 入門② データサイエンス入門②						
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②	倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②	現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②	現代社会と倫理学② 教育心理学②				
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②	経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②	社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②	日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②				
自然科学	物質の究極像② 薬はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②	人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②	脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②	天文学入門② 科学技術の発展と歴史②				
持 続 社 会 探 究								
環境・地域		地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②	気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②	自然環境と文明②				
国際理解		戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②	近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②	近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②				
人権・共生		裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②	生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②	地域福祉論② 高齢者福祉論②				
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②	情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②	野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②					
	Global Studies Seminar I ②							
	Global Studies Seminar II ②							
	Global Studies Seminar III ②							

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

卒業に必要な修得単位数

英語英米文学科

科 目 区 分			区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数	
全 学 共 通 科 目	外国語	英語科目	必修	4	28	
			選択必修	2		
			選択			
		初修外国語科目		16 以上		
	技能	日本語力科目				
		キャリア教育科目				
		情報基盤科目				
		健康・スポーツ科目				
	教養基礎	人文学	8 以上			
		社会科学				
		自然科学				
	持続社会探究	実践				
環境・地域						
国際理解						
人権・共生						
専門 科目	必修科目	英語必修科目		14	38	
		演習科目	24			
	選択科目	メインフォーカス	8以上	28 以上		
		他フォーカス	8以上			
		英語選択科目	1			
		関連科目				
自由 設計 科目	文学部共通科目	トピック・セミナー	30 以下	96		
		ことばの世界				
		東洋文庫連携科目				
		芸術文化行政コース開設科目				
		日本語教員養成コース開設科目				
	文学部総合講義					
	複合・学際科目	全学共通科目 超過単位				
		E A G L E 科目				
他学科・他学部・他大学						

(注) 自由設計科目のうち、全学共通科目超過単位は、6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

日本文学科

科目区分			区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数
全学 共通 科目	外国語	英語科目	必修	4	28
			選択必修	2	
		選択			
	技能	初修外国語科目		16 以上	
		日本語力科目			
		キャリア教育科目			
		情報基盤科目			
	教養基礎	人文	8 以上		
		社会			
		自然			
持続社会探究	実践				
	環境・地域				
	国際理解				
専門 科目	必修科目	基礎科目	10	38	
		基本ゼミ科目	28		
	選択科目	文学史科目	4以上	32 以上	
		日本語学講義科目	4以上		
		日本文学講義科目			
		学際科目			
		日本探究科目			
日本語力錬成科目					
自由 設計 科目	文学部共通科目	トピック・セミナー	26 以下		
		ことばの世界			
		東洋文庫連携科目			
		芸術文化行政コース開設科目			
		日本語教員養成コース開設科目			
	複合・学際科目	文学部総合講義			
		全学共通科目			
		超過単位			
	E A G L E 科目				
	他学科・他学部・他大学				

(注) 自由設計科目のうち、全学共通科目超過単位は、6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

国際文化学科

科目区分			区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数	
全 学 共 通 科 目	外国語	英語科目	必修	4	28	
			選択必修	2		
			選択			
	技能	初修外国語科目				16 以上
		日本語力科目				
		キャリア教育科目				
		情報基盤科目				
	教養基礎	健康・スポーツ科目				8 以上
		人文学				
		社会科学				
	持続社会探究	自然科学				8 以上
		実践				
環境・地域						
専 門 科 目	必修科目	国際関係科目		26	40 以上	
		演習系科目				
	選択必修科目	国際関係科目		6以上		
		文化人類学科目		6以上		
		歴史・文化研究科目		6以上		
	選択科目	広域科目				
		広域基礎科目				
	自 由 設 計 科 目	文学部共通科目	トピック・セミナー			30 以下
			ことばの世界			
			東洋文庫連携科目			
芸術文化行政コース開設科目						
日本語教員養成コース開設科目						
文学部総合講義						
複合・学際科目		全学共通科目				
		超過単位				
	E A G L E 科目					
他学科・他学部・他大学						

(注) 自由設計科目のうち、全学共通科目超過単位は、外国語科目についてのみ卒業に必要な修得単位数に算入する。

現代社会学科

科目区分			区分別必要単位数		卒業に必要な 修得単位数	
全学 共通 科目	外国語	必修	4	16 以上	28	
		英語科目	選択必修			2
			選択			
	技能	初修外国語科目				
		日本語力科目				
		キャリア教育科目				
		情報基盤科目				
	教養基礎	人文学	8 以上			
		社会科学				
		自然科学				
持続社会探究	実践					
	環境・地域					
	国際理解					
	人権・共生					
専門 科目	必修科目	必修専門	12	36	124	
		演習科目	24			
	選択科目	社会学基礎	34 以上			
		社会学発展				
		調査科目				
		メディア研究基礎				
		メディア研究発展				
		実践科目				
	現代社会研究 広域基礎科目					
	自由 設計 科目	文学部共通科目	トピック・セミナー	26 以下		96
ことばの世界						
東洋文庫連携科目						
芸術文化行政コース開設科目						
日本語教員養成コース開設科目						
文学部総合講義						
複合・学際科目		全学共通科目 超過単位				
		E A G L E 科目				
	他学科・他学部・他大学					

(注) 自由設計科目のうち、全学共通科目超過単位は、6単位まで卒業に必要な修得単位数に算入する。

科目群と科目の種類

各科目群の教育目的

■ 成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）

成蹊教養カリキュラムは、言語力や情報力をはじめとする「ジェネリックスキル（汎用的技能）」と、アカデミックな思考力を高める「学問知」、市民社会を担うための「市民知」とをバランスよく育んでいきます。（以下、履修要項上では、全学共通科目を「成蹊教養カリキュラム」と称します。）

■ 成蹊教養カリキュラムの科目群とその種類

成蹊教養カリキュラムは、「外国語」「技能」「教養基礎」「持続社会探究」の四つの科目群から成り立っています。「外国語」と「技能」に関しては体系的かつ段階的に学ぶために基礎的で重要な科目を「コア科目」とし、これを基に学修をさらに深めるために選択する「発展科目」から構成されています（「健康・スポーツ科目」を除く）。「教養基礎」「持続社会探究」については数ある科目から自由に選ぶことができます。

(1) 外国語

「外国語」は、英語科目と初修外国語科目があります。

英語科目は、1年次の「College English (Listening & Speaking) I・II」、 「College English (Reading & Writing) I・II」を必修とします。また、選択必修として、2年次に「College English (Integrated Skills) I・II」を履修します。（グローバル教育プログラム（EAGLE）所属学生は「College English (Integrated Skills) I・II」ではなく、1年次に「Intensive English I・II」を履修します。）他の選択科目は、受講者の英語学習に対するニーズ、能力等に応じて選択できます。

初修外国語科目は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語から選択します。それぞれの語学を基礎から学び、実践的スキルや国際理解能力を養成することができます。

(2) 技能

「技能」は、日本語力科目、キャリア教育科目、情報基盤科目、健康・スポーツ科目の4つの科目群があります。

①日本語力科目

社会人にふさわしい日本語力の習得を目標とした科目群であり、文章の書き方、漢字、表現、読解、話し方に関わる科目があります。

②キャリア教育科目

1年次の基礎科目としての「キャリアプランニング」で卒業後の進路を考える上での基礎知識を身に付けることができ、さらに「ビジネストレーニングセミナー」（1年次後期のみ履修可能、1年履修登録時に選抜あり）、「キャリアセミナー」、「インターンシップ準備講座・実習」（3年履修登録時に選抜あり）など、より実践的内容の科目を順次学ぶことで、社会に通用する能力を高めることができるようになっています。

③情報基盤科目

1年次前期に「情報基礎」を配置し、1年次後期以降は各自の興味に応じて選択できます。

④健康・スポーツ科目

さまざまな種目の実践と理論を通して自己の健康管理や集団マネジメントについて学ぶ演習科目と、スポーツと科学、文化、社会及び健康に関する学問的知見をより深く学ぶ講義科目を設けています。

(3) 教養基礎

「教養基礎」は、人文学、社会科学、自然科学の3つの科目群があります。学問分野区分に応じた科目構成となっており、すべての科目を1年次より履修できます。

(4) 持続社会探究

「持続社会探究」は、ESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れ、環境・地域、国際理解、人権・共生、実践の4つの科目群から成り立っており、持続可能な社会の実現に必要な知識を身に付けることができます。

科目の種類

■ 授業時期・期間による科目の種類は以下の通りです。

名 称	授業期間 ※	履修登録の時期	成績の公表時期 ※
前期科目	4月～7月	前期	9月
後期科目	9月～翌年1月	前期または後期	3月
通年科目	4月～翌年1月	前期	3月
集中講義科目	9月上旬	前期	10月

※ 授業期間、成績の公表時期の詳細は『履修成績関連日程』を参照してください。

■ 履修方法による科目の種類は以下の通りです。

名 称	概 要
必修科目	卒業資格の認定を得るために、必ず単位を修得しなければならない科目です。
登録必須科目	成蹊教養カリキュラム（全学共通科目）で大学が履修を推奨する科目です。1年次に必ず履修しなければならない科目です。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。
選択科目	選択して履修することができる科目です。

科目群と科目の種類（法学部開設科目）

法学部カリキュラムは、法律学科と政治学科に分かれており、下記のように区分されています。

1. 法律学科開設科目

科目区分			
成蹊教養カリキュラム			
法学部 法律学科 開設科目	基幹科目	必修科目	基本科目
			演習科目
		選択必修科目	演習科目
			基本科目
		選択科目	応用科目
			演習科目
			LE科目
			PSE科目
	法律発展		
	法律・特殊講義		
	関連科目	選択科目	法律コンデンスト
			政治
			経済
			教養科目
PSE基礎科目			
EAGLE科目			
自由選択科目			広域基礎科目

※網掛けの部分の後掲の政治学科開設科目を参照してください。

※広域基礎科目は、2013年度以降入学者のうち、教職課程登録者のみ履修できます。

< 基幹科目 >

■ 必修科目

卒業資格の認定を得るためには、この科目の単位を取得していることが必須です。また科目の内容としても、法律学科で履修するすべての分野の前提となる極めて重要な科目です。必ず配当年次に修得をして、その後の学習の基盤を築いてください。

・基本科目

法学の基礎となる極めて重要な法律科目です。他の法分野を理解するためにも、これらの分野の体系的な理解と、その解釈方法論を身につけることが強く望まれます。

・演習科目

(演習IA)

1年次前期の必修科目としての演習科目です。演習科目は別名「ゼミ」と呼ばれます。専門教育課程で必要とされる基本技能として、論理的思考力、自己表現能力、複眼的思考能力、自己を取り巻く世界に対する幅広い視野などがあり、これらを習得するための科目です。少人数のゼミ形式により、プレゼンテーション、グループ・ディスカッション、資料分析などの指導を通し、基本技能を習得します。

(演習IVB)

4年次後期の必修科目としての演習科目です。ゼミ論文（卒業論文相当の成果物）の提出が必須となります。少人数の学生が教員とともに、個別の分野のトピックを深く探求する科目です。自分の興味ある分野をとことん掘り下げて研究するとともに、社会に出てから必要とされるさまざまな技術や能力を身につけ

することもできます。ゼミの実施形態は担当教員によって異なりますが、多くのゼミは参加者の人間関係が緊密ですので、ゼミの友は一生の友と言ってもいいほどの濃い人間関係を形成することも可能です。教員との心理的な距離も近いので、多くのことを学び得る成長の場でもあります。

■ 選択必修科目

指定された科目の中から所定の単位数を修得していることが、卒業資格の認定を得るための要件となる科目です。

・ 演習科目

3年次～4年次前期の選択必修科目としての演習科目です。少人数の学生が教員とともに、個別の分野のトピックを深く探求する科目です。自分の興味ある分野をとことん掘り下げて研究するとともに、社会に出てから必要とされるさまざまな技術や能力を身につけることもできます。ゼミの実施形態は担当教員によって異なりますが、多くのゼミは参加者の人間関係が緊密ですので、ゼミの友は一生の友と言ってもいいほどの濃い人間関係を形成することも可能です。教員との心理的な距離も近いので、多くのことを学び得る成長の場でもあります。

・ 基本科目

法律学の基礎となる極めて重要な法律科目です。他の法分野を理解するためにも、これらの分野の体系的な理解と、その解釈方法論を身につけることが強く望まれます。

■ 選択科目

卒業資格の認定を得るために必要な単位数を修得するために各自の興味や関心に沿って選択することが可能な科目です。

・ 応用科目

重要性の高い法律の各分野を扱う科目です。様々な分野で生きている法律から規範の意義や社会の仕組みを理解し、人の営みを考えていきます。

・ 演習科目

1年次後期～2年次の選択科目としての演習科目です。少人数の学生が教員とともに、個別の分野のトピックを深く探求する科目です。自分の興味ある分野をとことん掘り下げて研究するとともに、社会に出てから必要とされるさまざまな技術や能力を身につけることもできます。ゼミの実施形態は担当教員によって異なりますが、多くのゼミは参加者の人間関係が緊密ですので、ゼミの友は一生の友と言ってもいいほどの濃い人間関係を形成することも可能です。教員との心理的な距離も近いので、多くのことを学び得る成長の場でもあります。

・ LE科目

基本となる科目の発展的な内容を扱う科目です。選抜された参加者のみが履修できます。

・ 法律発展

外国法や過去の法制度など、日本の現行法以外の法制度について研究する科目です。それにより、日本の現行法をより客観的に理解できるようになります。

・ 法律・特殊講義

特定の法的トピックをとりあげて、深く研究していく科目です。

< 関連科目 >

■ 選択科目

・ 法律コンデンスト

「コンデンスト」とは、英語のcondense（凝縮する）から来ています。憲法、民法、行政法など、基幹科目で学ぶ重要科目について、内容を凝縮したものが法律コンデンスト科目です。公務員試験など各種試験を目指す場合に、基幹科目で学んだ内容をもう一度学んだり、基幹科目で学ぶ前に一通り内容を把握したり、各自のニーズに合わせて履修してください。なお、他学部・他学科の学生が各科目の基本を知るために履修することも想定されています。

・経済

「経済」に関する科目を配置しています。現代社会では経済活動は法律、政治と密接不可分です。法律、政治そのものを理解するためにもこの分野に関する科目を積極的に履修してください。

・教養科目

法学、政治学の学習に密接に関連し、幅広い教養を身につけるための科目が配置されています。複数の外国語とそれを支える文化に関する科目も多く提供されていますので、積極的に履修してください。

・EAGLE科目

詳細は、後掲の『EAGLE』を参照してください。

・広域基礎科目

日本史・外国史・地理など、主として教職をめざす学生に必要な教科の素養を養成するための科目です。2013年度以降入学者で教職課程履修者のみ履修することができます。

2. 政治学科開設科目

科 目 区 分					
成蹊教養カリキュラム					
法学部政治学科 開設科目	基幹科目	必修科目	基盤科目 演習科目		
		登録必須科目	基盤科目		
		選択必修科目	基礎講義 演習科目		
		選択科目	選択科目	共通科目	政治理論・ 歴史コース
				現代政治・ 行政コース	
				国際政治 コース	
				選択科目	
				P S E 科目	
				法律基本 法律発展 法律・特殊講義 L E 科目 法律コンデンスト 経 済	
		選択科目	選択科目	教養科目 P S E 基礎科目 E A G L E 科目 広域基礎科目	
		自由選択科目	自由選択科目		

※網掛けの部分の前掲の法律学科開設科目を参照してください。
 ※広域基礎科目は、2013年度以降入学者のうち、教職課程登録者のみ履修できます。

< 基幹科目 >

■ 必修科目

卒業資格の認定を得るためには、この科目の単位を取得していることが必須です。政治学科で学んでいくための基礎となる内容を学びますから、早い年次のうちに履修するようにしてください。

・基盤科目

政治学を学ぶ上で重要性が高い科目が配置されています。政治学の他の分野を理解するためにも、ここに配置されている科目を履修することが強く望まれます。

・演習科目

「ゼミ」ともいいます。自ら調査し、報告し、討論し、その結果をまとめる訓練を少人数で行います。自分の興味ある分野を深く掘り下げて研究するとともに、社会に出てから必要とされるさまざまな技術や能力を身につけることもできます。ゼミの内容や実施形態は担当教員によって異なりますが、3年次の演習 III B の最後には、それまで大学で学んだこと全体のまとめとなるゼミ論文（卒業論文相当の成果物）を作成することになっています。それまでの演習科目はその準備段階でもあり、そのための方法を身につけるための授業としても位置づけられます。

■ 登録必須科目

政治学科で履修を推奨する科目で、1年次に必ず履修しなければなりません。卒業資格認定の必須要件ではありません。単位を修得していない場合でも卒業資格の認定を得ることができます。

■ 選択必修科目

指定された科目の中から所定の単位数を修得していることが、卒業資格の認定を得るための要件となる科目です。

・基礎講義

政治学科配当の各専門科目の内容を学ぶ前に基礎的な内容をわかりやすく解説する講義科目です。

■ 選択科目

各自の興味や関心に沿って選択することが可能な科目です。2年次以後は、学習の基軸としたいものをよく考えてコースの所属を決めて下さい。

・演習科目

授業の進めかたは必修科目の演習科目と同じです。これまで学んだ対象についてさらに深く学びたい、さらに関心を広げて学びたいという学生は、引き続き選択科目の演習科目を履修してください。

・共通科目

「政治理論・歴史コース」・「現代政治・行政コース」・「国際政治コース」で学ぶ内容の基礎を身につけるための科目です。

・政治理論・歴史コース

政治の思想・理論・歴史についての理解を通して、「政治とは何か」を徹底的に考え抜く科目が配置されています。政治学の基本かつ究極の問題について学びたい学生を主な対象とするコースです。

・現代政治・行政コース

現代社会における立法・行政・地方自治などの政治の過程を多様な角度から分析する科目が提供されています。現代の国家・政治社会が抱える諸問題を、政治制度や政策分析などを通して構造的なところまで深く理解したい学生を主な対象とするコースです。

・国際政治コース

現在の国際社会の仕組みや国際関係の歴史に関する科目と、アジア・米国・ヨーロッパなど世界各地の政治社会の歴史や現状を学ぶ科目が提供されています。世界に視野を広げ、その姿と問題点を知りたい学生を主な対象とするコースです。

・選択科目

各コース科目には加えていませんが、さらに深く政治について学びたい学生のために、様々な分野の講義科目を提供しています。

・PSE 科目

主に、英語のテキストを用いて政治に関する専門的な知識やコミュニケーション能力を深めていくことを目指します。

< 関連科目 >

■ 選択科目

・PSE 基礎科目

PSE 科目の導入と位置づけられる科目で、専門的な政治学の知識を修得するために必要とされる一般的知識・教養等を身につけることを目指します。

カリキュラム科目一覧

■ 全学共通科目（成蹊教養カリキュラム科目）

○印の数字は、当該科目の単位数を表します。

科目区分		授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
外 国 語									
英 語 科 目	必 修	College English (Listening & Speaking) I ○ College English (Reading & Writing) I ○							
		College English (Listening & Speaking) II ○ College English (Reading & Writing) II ○							
	選 択 必 修	Intensive English I ○							
		Intensive English II ○ College English (Integrated Skills) I ○ College English (Integrated Skills) II ○							
	資 格 試 験	TOEFL Preparation Introduction ○ TOEFL Preparation Intermediate ○ TOEIC Preparation Introduction ○ TOEIC Preparation Intermediate ○ IELTS Preparation Introduction ○ IELTS Preparation Intermediate ○							
		英語力強化科目 基礎からのコミュニケーション英文法 ○ 自分でデザインする英語学習 ○ 英語発音トレーニング ○ 英語読解トレーニング ○							
	選 択	スキル強化科目 Presentation Skills Basic ○ Discussion Skills Basic ○ Writing Skills (Paragraph) ○ Presentation Skills Intermediate ○ Discussion Skills Intermediate ○ Writing Skills (Essay) ○							
		英語発展科目 多読で学ぶ英語と文化 I ○ 多読で学ぶ英語と文化 II ○ 映画で学ぶ英語と文化 ○ ドラマで学ぶ英語と文化 ○ 歌で学ぶ英語と文化 ○ メディアで学ぶ英語と文化 ○ キャリアのための英語と文化 ○							
	扱	TOEFL Preparation Advanced I ○ IELTS Preparation Advanced I ○ TOEIC Preparation Advanced ○							
		Advanced English TOEFL Preparation Advanced II ○ IELTS Preparation Advanced II ○ Media English ○ Academic Listening ○ Cross Cultural Communication Skills ○ Discussion & Presentation ○ English for the Workplace ○ Essay Writing ○ Intensive Reading ○ World Englishes ○							
初修外国語科目	コ ア	ドイツ語基礎 A I ○ ドイツ語基礎 B I ○ フランス語基礎 A I ○ フランス語基礎 B I ○ スペイン語基礎 A I ○ スペイン語基礎 B I ○ 中国語基礎 A I ○ 中国語基礎 B I ○ 韓国語基礎 A I ○ 韓国語基礎 B I ○							
		ドイツ語基礎 A II ○ ドイツ語基礎 B II ○ フランス語基礎 A II ○ フランス語基礎 B II ○ スペイン語基礎 A II ○ スペイン語基礎 B II ○ 中国語基礎 A II ○ 中国語基礎 B II ○ 韓国語基礎 A II ○ 韓国語基礎 B II ○							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム								
	1年次		2年次		3年次		4年次		
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8	
初 修 外 国 語 科 目	発展A群	ドイツ語演習コミュニケーションⅠ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅡ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅢ②		ドイツ語演習コミュニケーションⅣ②	
		フランス語演習コミュニケーションⅠ②		フランス語演習コミュニケーションⅡ②		フランス語演習コミュニケーションⅢ②		フランス語演習コミュニケーションⅣ②	
	スペイン語演習コミュニケーションⅠ②		スペイン語演習コミュニケーションⅡ②		スペイン語演習コミュニケーションⅢ②		スペイン語演習コミュニケーションⅣ②		
	中国語演習コミュニケーションⅠ②		中国語演習コミュニケーションⅡ②		中国語演習コミュニケーションⅢ②		中国語演習コミュニケーションⅣ②		
	韓国語演習コミュニケーションⅠ②		韓国語演習コミュニケーションⅡ②		韓国語演習コミュニケーションⅢ②		韓国語演習コミュニケーションⅣ②		
発展B群	ドイツ語演習言語と文化Ⅰ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅲ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅰ②		ドイツ語演習言語と文化Ⅳ②		
	フランス語演習言語と文化Ⅰ②		フランス語演習言語と文化Ⅲ②		フランス語演習言語と文化Ⅰ②		フランス語演習言語と文化Ⅳ②		
発展C群	ドイツ語演習検定対策Ⅰ②		ドイツ語演習検定対策Ⅲ②		ドイツ語演習検定対策Ⅰ②		ドイツ語演習検定対策Ⅳ②		
	フランス語演習検定対策Ⅰ②		フランス語演習検定対策Ⅲ②		フランス語演習検定対策Ⅰ②		フランス語演習検定対策Ⅳ②		
発展D群	ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅠ②		ドイツ語演習プレゼンテーションⅡ②		
	フランス語演習プレゼンテーションⅠ②		フランス語演習プレゼンテーションⅡ②		フランス語演習プレゼンテーションⅠ②		フランス語演習プレゼンテーションⅡ②		
E群	世界の言語①								

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
技 能								
日本語力科目	コ ア	実践日本語表現② 実践話し方入門②						
		日本語表現講義② 実践漢字講座② 語彙・読解講座②						
	発 展	古典に学ぶ日本語表現②						
		実用文書の作り方・情報の伝え方② テーマ別日本語表現②						
キャリア教育科目	コ ア	キャリアプランニング②						
		ビジネストレーニングセミナー②						
	発 展	キャリアセミナー② キャリア発展講義②			グローバルキャリアセミナー② 日本企業の現状と展望②			
		インターンシップ準備講座② インターンシップ実習② 理工系インターンシップ実習② 発展インターンシップ準備講座② 発展インターンシップ実習②					Global Career Design②	
情報基礎科目	コ ア	情報基礎②						
	発 展	情報活用A② 情報活用D② Python 入門②	情報活用B② 情報活用E② データサイエンス入門②	情報活用C② 情報活用F②				
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ演習A② 健康・スポーツ演習B② スポーツと科学② スポーツと文化② スポーツと社会② 健康と科学②							

科目区分	授 業 科 目 ・ 単 位 数 ・ 年 次 ・ タ ー ム							
	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
教 養 基 礎								
人文学	哲学の基礎② 文学への招待② 心理学の基礎②		倫理学の基礎② 芸術への招待② 自己理解の心理学②		現代社会と哲学② カルチュラル・スタディーズ② 教育原理②		現代社会と倫理学② 教育心理学②	
社会科学	政治学の基礎② 市民生活と法A② 企業と社会② 現代社会の地理②		経済学の基礎② 市民生活と法B② 学校と社会②		社会学と現代② 現代のマスメディア② 近現代日本史A②		日本国憲法② 社会心理学入門② 近現代日本史B②	
自然科学	物質の究極像② 薬はなぜ効くか② サイエンス・トピックス② AI 入門②		人間と進化② 身の回りの科学② 統計分析入門②		脳科学と心② 科学史② データサイエンスのための基礎数学②		天文学入門② 科学技術の発展と歴史②	
持 続 社 会 探 究								
環境・地域			地球と環境② 日本列島の歴史と災害② 外国の自然と社会A② 地域づくり論②		気象と地球環境② 日本の国土と社会② 外国の自然と社会B② 環境科学トピックス②		自然環境と文明②	
国際理解			戦後の日本と世界② 近現代の欧米A② 現代の国際政治② 異文化理解トピックス②		近現代のアジアA② 近現代の欧米B② グローバル経済論②		近現代のアジアB② 中東地域史② 国際文化交流論②	
人権・共生			裁判と社会② 人権とジェンダー② 福祉社会に生きる② 共生社会トピックス②		生命倫理と法② こころの健康と臨床② 特別支援教育概論②		地域福祉論② 高齢者福祉論②	
実 践	成蹊を知る② 地元学実践演習② 大学生活と相互理解② 武蔵野地域連携セミナー②		情報保障とボランティア② 武蔵野地域研究② 成蹊グローバルセミナーA②		野外自然教育論② 武蔵野市寄附講座② 成蹊グローバルセミナーB②			
	Global Studies Seminar I ②							
	Global Studies Seminar II ②							
Global Studies Seminar III ②								

(注) この表に掲げる授業科目のうち、一部の科目については、別に定めるところにより履修を制限することがある。

成蹊大学全学教育協議会規則

制 定 2019年10月23日
大 学 評 議 会

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学学則第34条の規定に基づき編成された全学共通科目及び学生の多様な学びを支援する副専攻の円滑な運営を図るために設置する成蹊大学全学教育協議会（以下「協議会」という。）に関し必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 協議会は、全学共通科目及び副専攻（以下「全学共通科目等」という。）の運営に関する次の事項を協議する。

- (1) 全学共通科目等の運営の基本方針に関する事項
- (2) 全学共通科目等のカリキュラム編成に関する事項
- (3) 全学共通科目等の運営に必要な諸規則の制定・改廃に関する事項
- (4) 全学共通科目等を担当する教員の人事に関する事項
- (5) その他協議会が全学共通科目等の円滑な運営に必要と認める事項

(構成)

第3条 協議会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部の学部長
- (4) 全学教育運営委員会の副委員長
- (5) 教務部長
- (6) その他学長が指名した者

2 前項第6号の構成員の任期は1年以内とし、学長が定める。

(運営)

第4条 協議会は、学長が招集し、議長となる。

2 協議会は、協議会が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(議事)

第5条 協議会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(全学教育運営委員会)

第6条 全学共通科目等の運営に関する協議、調整及び実務を行うため、協議会の下に、成蹊大学全学教育運営委員会を置く。

2 成蹊大学全学教育運営委員会に関する規則は、別に定める。

(議事録の作成)

第7条 協議会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。

(事務の所管)

第8条 協議会に関する事務は、教務部が所管する。

(規則の改廃)

第9条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (2019年10月23日制定)

- 1 この規則は、2019年10月23日から施行する。
- 2 2019年度に就任する協議会構成員のうち、第3条第1項第3号に規定する各学部の学部長には、2020年度に設置予定の新経済学部及び経営学部の学部長就任予定者を含めるものとする。
- 3 成蹊大学全学教育委員会規則(2008年7月9日大学評議会制定)、成蹊大学全学教育委員会の下部組織及び業務等の委任に関する規則(2008年7月31日全学教育委員会制定)、及び成蹊大学全学教育教員選考規則(2009年5月13日全学教育委員会制定)は、廃止する。

成蹊大学全学教育運営委員会規則

制 定 2019年10月23日
大 学 評 議 会

（趣旨）

第1条 この規則は、成蹊大学全学教育協議会規則第6条の規定に基づき、成蹊大学全学教育運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第2条 委員会は、次の事項を協議、決定し、併せて実務を統括する。

- （1）全学共通科目のカリキュラム編成に関する事項
- （2）全学共通科目の運営に係る企画立案に関する事項
- （3）全学共通科目の授業計画に関する事項
- （4）全学共通科目の履修に関する事項
- （5）全学共通科目の単位認定のあり方に関する事項
- （6）全学共通科目の学期末試験及び成績評価のあり方に関する事項
- （7）全学共通科目の運営に必要な諸規則の制定・改廃に関する事項
- （8）全学共通科目を主に担当する専任教員（特別任用教授、大学客員教員、全学教育講師及び常勤講師を含む。）の採用、管理等に関する事項
- （9）全学共通科目を担当する非常勤講師の採用、監督等に関する事項
- （10）全学共通科目の授業内容の改善に関する事項
- （11）副専攻に関する事項
- （12）全学共通科目、グローバル教育プログラム及び教職課程との間の連絡調整に関する事項
- （13）全学教育協議会から諮問された事項
- （14）その他委員会が全学共通科目の円滑な運営に必要と認める事項

（構成、運営等）

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- （1）委員長
- （2）副委員長
- （3）各学部から選出された委員 各1名
- （4）第8条に規定する科目部会の各部会長
- （5）大学国際教育センター所長
- （6）キャリア支援センター所長
- （7）高等教育開発・支援センター所長
- （8）教職課程センター所長
- （9）教務部長
- （10）教務部の課長のうち1名
- （11）その他学長が委嘱した者

（委員長及び副委員長）

第4条 委員長は、副学長のうちから学長が指名する。

2 副委員長は、学長補佐のうちから学長が指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長が欠けた場合に委員長の職務を代行する。

（任期）

第5条 委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第3条第1項第3号及び第11号に掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 第3条第1項第4号から第10号に掲げる委員の任期は、その職の在任期間とする。

（運営）

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員会が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（議事）

第7条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 第3条各号に規定する委員が運営委員会に出席できないときは、あらかじめ委員長の了解を得て代理の者を出席させることができる。この場合において、当該代理者は委員として扱うものとする。

3 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（下部組織の設置及び業務の委任）

第8条 委員会は、第2条各号に掲げる任務を果たすため、次に掲げる下部組織を置く。

（1）全学教育専門委員会

（2）科目部会

2 委員長が必要と認めた場合は、第2条各号に掲げる事項の協議及び付随する業務を、前項の下部組織、大学の各種委員会、各機関又は各学部委任することができる。ただし、非常勤講師の解雇及び契約の打切りに係る業務を除く。

3 下部組織の体制及び業務の委任に関するその他の事項は、別に定める。

（議事録の作成）

第9条 委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び協議の結果並びに決定事項を記録する。

（事務の所管）

第10条 委員会に関する事務は、教務部が所管する。

（規則の改廃）

第11条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則（2019年10月23日制定）

1 この規則は、2019年10月23日から施行する。

2 第3条各号に掲げる委員のうち、2020年3月31日までは、「大学国際教育センター所長」を「大学国際教育センター所員 1名」に、「キャリア支援センター所長」を「キャリア教育委員会委員 1名」に、「高等教育開発・支援センター所長」を「高等教育開発・支援センター運営委員 1名」に、それぞれ読み替えるものとする。

3 2019年度に就任するその職の在任期間の任期によらない委員の任期は、第5条各項の規定にかかわらず、2020年3月31日までとする。

4 第3条第1項第3号に規定する委員は、本規則の制定日から2020年3月31日までの間は、2020年度に設置予定の新経済学部及び経営学部所属予定の教員のうちから選出された委員をそれぞれ1名含めるものとする。この場合において、経済学部から選出された委員は、新経済学部又は経営学部所属予定の委員を兼ねることができる。

成蹊大学全学教育協議会規則

制 定 2019年10月23日
大 学 評 議 会

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学学則第34条の規定に基づき編成された全学共通科目及び学生の多様な学びを支援する副専攻の円滑な運営を図るために設置する成蹊大学全学教育協議会（以下「協議会」という。）に関し必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 協議会は、全学共通科目及び副専攻（以下「全学共通科目等」という。）の運営に関する次の事項を協議する。

- (1) 全学共通科目等の運営の基本方針に関する事項
- (2) 全学共通科目等のカリキュラム編成に関する事項
- (3) 全学共通科目等の運営に必要な諸規則の制定・改廃に関する事項
- (4) 全学共通科目等を担当する教員の人事に関する事項
- (5) その他協議会が全学共通科目等の円滑な運営に必要と認める事項

(構成)

第3条 協議会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部の学部長
- (4) 全学教育運営委員会の副委員長
- (5) 教務部長
- (6) その他学長が指名した者

2 前項第6号の構成員の任期は1年以内とし、学長が定める。

(運営)

第4条 協議会は、学長が招集し、議長となる。

2 協議会は、協議会が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(議事)

第5条 協議会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 協議会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(全学教育運営委員会)

第6条 全学共通科目等の運営に関する協議、調整及び実務を行うため、協議会の下に、成蹊大学全学教育運営委員会を置く。

2 成蹊大学全学教育運営委員会に関する規則は、別に定める。

(議事録の作成)

第7条 協議会に議事録を備え、議事進行の過程及び審議の結果並びに決定事項を記録する。

(事務の所管)

第8条 協議会に関する事務は、教務部が所管する。

(規則の改廃)

第9条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則 (2019年10月23日制定)

- 1 この規則は、2019年10月23日から施行する。
- 2 2019年度に就任する協議会構成員のうち、第3条第1項第3号に規定する各学部の学部長には、2020年度に設置予定の新経済学部及び経営学部の学部長就任予定者を含めるものとする。
- 3 成蹊大学全学教育委員会規則(2008年7月9日大学評議会制定)、成蹊大学全学教育委員会の下部組織及び業務等の委任に関する規則(2008年7月31日全学教育委員会制定)、及び成蹊大学全学教育教員選考規則(2009年5月13日全学教育委員会制定)は、廃止する。

成蹊大学全学教育運営委員会規則

制 定 2019年10月23日
大 学 評 議 会

（趣旨）

第1条 この規則は、成蹊大学全学教育協議会規則第6条の規定に基づき、成蹊大学全学教育運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第2条 委員会は、次の事項を協議、決定し、併せて実務を統括する。

- （1）全学共通科目のカリキュラム編成に関する事項
- （2）全学共通科目の運営に係る企画立案に関する事項
- （3）全学共通科目の授業計画に関する事項
- （4）全学共通科目の履修に関する事項
- （5）全学共通科目の単位認定のあり方に関する事項
- （6）全学共通科目の学期末試験及び成績評価のあり方に関する事項
- （7）全学共通科目の運営に必要な諸規則の制定・改廃に関する事項
- （8）全学共通科目を主に担当する専任教員（特別任用教授、大学客員教員、全学教育講師及び常勤講師を含む。）の採用、管理等に関する事項
- （9）全学共通科目を担当する非常勤講師の採用、監督等に関する事項
- （10）全学共通科目の授業内容の改善に関する事項
- （11）副専攻に関する事項
- （12）全学共通科目、グローバル教育プログラム及び教職課程との間の連絡調整に関する事項
- （13）全学教育協議会から諮問された事項
- （14）その他委員会が全学共通科目の円滑な運営に必要と認める事項
（構成、運営等）

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- （1）委員長
- （2）副委員長
- （3）各学部から選出された委員 各1名
- （4）第8条に規定する科目部会の各部会長
- （5）大学国際教育センター所長
- （6）キャリア支援センター所長
- （7）高等教育開発・支援センター所長
- （8）教職課程センター所長
- （9）教務部長
- （10）教務部の課長のうち1名
- （11）その他学長が委嘱した者
（委員長及び副委員長）

第4条 委員長は、副学長のうちから学長が指名する。

2 副委員長は、学長補佐のうちから学長が指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐するとともに、委員長が欠けた場合に委員長の職務を代行する。

（任期）

第5条 委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第3条第1項第3号及び第11号に掲げる委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 第3条第1項第4号から第10号に掲げる委員の任期は、その職の在任期間とする。

（運営）

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員会が必要と認めた者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（議事）

第7条 委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

2 第3条各号に規定する委員が運営委員会に出席できないときは、あらかじめ委員長の了解を得て代理の者を出席させることができる。この場合において、当該代理者は委員として扱うものとする。

3 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（下部組織の設置及び業務の委任）

第8条 委員会は、第2条各号に掲げる任務を果たすため、次に掲げる下部組織を置く。

（1）全学教育専門委員会

（2）科目部会

2 委員長が必要と認めた場合は、第2条各号に掲げる事項の協議及び付随する業務を、前項の下部組織、大学の各種委員会、各機関又は各学部へ委任することができる。ただし、非常勤講師の解雇及び契約の打切りに係る業務を除く。

3 下部組織の体制及び業務の委任に関するその他の事項は、別に定める。

（議事録の作成）

第9条 委員会に議事録を備え、議事進行の過程及び協議の結果並びに決定事項を記録する。

（事務の所管）

第10条 委員会に関する事務は、教務部が所管する。

（規則の改廃）

第11条 この規則の改廃は、大学評議会の議を経て、学長が決定する。

附 則（2019年10月23日制定）

1 この規則は、2019年10月23日から施行する。

2 第3条各号に掲げる委員のうち、2020年3月31日までは、「大学国際教育センター所長」を「大学国際教育センター所員 1名」に、「キャリア支援センター所長」を「キャリア教育委員会委員 1名」に、「高等教育開発・支援センター所長」を「高等教育開発・支援センター運営委員 1名」に、それぞれ読み替えるものとする。

3 2019年度に就任するその職の在任期間の任期によらない委員の任期は、第5条各項の規定にかかわらず、2020年3月31日までとする。

4 第3条第1項第3号に規定する委員は、本規則の制定日から2020年3月31日までの間は、2020年度に設置予定の新経済学部及び経営学部へ所属予定の教員のうちから選出された委員をそれぞれ1名含めるものとする。この場合において、経済学部から選出された委員は、新経済学部又は経営学部へ所属予定の委員を兼ねることができる。

Society5.0時代において活躍できる人材育成に向けて

「データサイエンス副専攻^(※)」の導入プログラムとして、データから価値を見出し、社会における様々な問題解決につなげるため「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」を全学開講

(※)補足資料参照

学修目標

1. ビッグデータやAIがもたらす社会変化を知り、データサイエンスの活用事例を通して代表的な技術や応用への理解を深める能力を身に付ける
2. データを扱う上で留意すべき法制度・倫理等を理解し、適切なデータ利活用のための知識を備える能力を身に付ける
3. 実データの収集や整理を通して、基本的な手法を用いたデータ分析を実践できる能力を身に付ける

修了要件

成蹊教養カリキュラム科目『**データサイエンス入門**』(2単位)を履修し、単位を修得すること

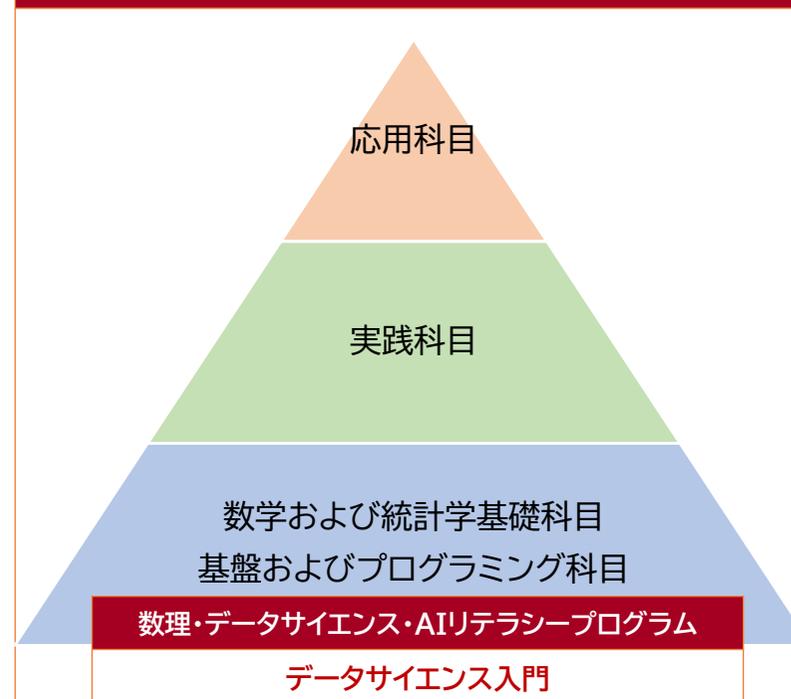
特徴

- 令和2年度以降に入学した全学部生を対象とし、1年次後期より履修が可能
- プログラム修了後、修了証を交付

実施体制

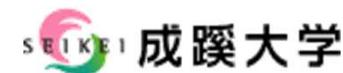
成蹊大学全学教育運営委員会においてプログラムの自己点検・評価、および改善を検討

データサイエンス副専攻と本プログラムの位置づけ



『データサイエンス入門』本副専攻の必修科目
ビッグデータやAIの理解を深め、データを活用する上で必要な倫理やデータの適切な扱い方を学修し、データ分析のための基礎的な知識やスキルを習得する。

成蹊大学 補足資料：データサイエンス副専攻



区分	科目名(全て2単位)		必要単位数		
			文系	理系	
基盤およびプログラミング	データサイエンス入門		2	2	16
	Python入門	Pythonプログラミング実験	2		
	情報活用E(Excel VBA入門)	プログラミング基礎			
	プログラミング演習	プログラミングの基礎			
数学および統計学基礎	データサイエンスのための基礎数学	初級経済数学	2		
	統計学入門	中級経済数学			
	確率統計 I	初級統計学 I			
	確率統計基礎	初級統計学 II			
	化学数学	量的調査入門(統計学)			
	経済数学 I	統計学			
	経済数学 II	経営数学B			
	経済数学 III				
実践	AI入門	情報分析ゼミナール	4	4	
	統計分析入門	データモデリング			
	計量経済学 I	実践データモデリング			
	計量経済学 II	量的調査法(統計分析)			
	計量経済学 III	計量政治学			
	中級計量経済学	経営情報分析			
	応用計量経済学	ビジネス・モデリング			
	GISゼミナール	多変量解析			
応用	データサイエンス応用	Advanced Econometrics I		4	
	ビッグデータ解析	Advanced Econometrics II			
	応用機械学習	計量実践 ワークショップ			
	統計モデリング				

《副専攻制度の概要と変遷》
所属学科の専門分野の学びにプラスして、自分の興味関心やニーズに沿った学習を進められる

令和2年度より共通科目・学部専門科目の垣根を超えて、全学的な取り組みとして副専攻制度を開始。

Society5.0時代に向け、数理・統計、プログラミング等のデータサイエンスについての基礎的な教養をベースに、データに基づく問題解決の手法を学ぶことを目的として、令和3年度にデータサイエンス副専攻を設置。

データサイエンス副専攻では、45科目(令和5年度時点)の中から文系・理系の各修了要件を満たすことで、修了証を発行予定(令和4年度より)。

《運営体制》
全学教育運営委員会(実施点・運営・点検・評価・改善)

